**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンAからパターンEまで

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**インストラクターコースパターン集（パターン一覧）**

**～はじめに～**

ACLS大阪WG委員会内で検討し、インストラクターコースでの質の担保のための参考にしていただければと作成いたしました。本インストラクターコースパターン集はあくまで一例であり、この中のどれかのパターンを必ず使用してというものではありません。インストラクターコースディレクターのみなさまにおかれましては、本パターン集を参考に自施設コース開催に関し独自で改変いただいき、使用していただくのも結構です。

下記に各パターンの目的を提示していますので参考にしてください

[**パターンA　（１頁から11頁まで）**](#パターンＡ)（Ｃtrlを押して黄色箇所を左クリックすると該当ページにジャンプします）

指導者養成WSにおいてファシリテーター初参加者向け。初めてのWSでもあわてずにできるような目的です

（作成:太田育夫【委員長】）

[**パターンB　（12頁から29頁まで）**](#パターンＢ)（Ｃtrlを押して黄色箇所を左クリックすると該当ページにジャンプします）

経験1～2回目のビギナー向けで、インストの基礎スキルを身につけることに重点を置いた内容

（作成:小林正直【委員】）

[**パターンC**　**（30頁から45頁まで）**](#パターンＣ)（Ｃtrlを押して黄色箇所を左クリックすると該当ページにジャンプします）

スキルステーションでの指導、デモンストレーション技法、シナリオステーションでの指導を、受講生グループ内でロールプレイを中心に学んでいただく位置づけにしています

（作成:新藤光郎【委員】）

[**パターンD　（46頁から61頁まで）**](#パターンＤ)（Ｃtrlを押して黄色箇所を左クリックすると該当ページにジャンプします）

基本的なインストラクターとしての知識と姿勢をひとりひとりが体験し、考えながら学べる進め方

（作成:向井友一郎【委員】）

[**パターンE　（62頁から73頁まで）**](#パターンＥ)（Ｃtrlを押して黄色箇所を左クリックすると該当ページにジャンプします）

スキルステーションとシナリオステーションのパートで実践に近い内容を取り入れ、コース中に即戦力として活躍できることを目的にしています

（作成:岸本正文【委員】）

**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンA（作成：太田育夫【委員長】）

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**ACLS大阪　インストラクターコースについて**

大阪府医師会二次救命処置インストコース へのご参加を頂き、ありがとうございます。

指導者養成を目的としたコースやWS では、例えば、「ブリーフィング/デブリーフィング」「positive feedback」などの数々の用語を提示し、さらに、「指導法かくあるべし」という解説に終始してしまうことが、ままあります。このWS では、指導者養成のための取り組みにおいて、「指導法かくあるべし」と押しつけるのではなく、指導者として成長していく中でヒントとなることに「気づく」、そして、現場(コースなど)に「還元」することができることを目標としてきました。

WS の中心をなすのは、参加者の皆様です。ファシリテーターは、あくまでも司会進行役で、一方的に、知識や技術を押しつけたりしません。「参加者の気づきを手助けするため」、「自発的に意見交換ができるため」に環境を整えていくことで、効果的な指導を実践するうえでの注意することなどを参加者全員で体を動かし、気づき、気づいたことをディスカッションをしていくコースです。

ですから「明確な答えは存在しません。」

ファシリテーターは指導者といっても、みなさんより、少しだけ早く、インストラクターという世界に飛び込んだ先輩達です。みなさんたちと一緒に、悩んだり、考えたり、楽しんだりしたいと思っています。間違いをおそれず、いろんなことをやって、そして、いろんなことを発言して、楽しんでください。二次救命処置コースと一緒ですね。

そして、一日が終わる頃には、参加者によい気づきと、学びが生まれており、彼らの指導に変化が加えられれば幸いです。

【持参するもの】

筆記用具、ストップウォッチ

【各自が印刷し持参するもの】

本資料、ACLS大阪コンセンサス、ブース割、時間割、ICLS指導者コースガイドブック



**【ACLS大阪　インストラクターコースの目標】**

一般目標

　二次救命処置の内容を熟知し、その効果的な指導方法を実践できるインストラクターとなる

具体的目標

* 二次救命処置を医療従事者に普及させることの意義を説明できる。
* ACLS大阪のコンセンサス（コースの到達目標、指導方法、用語等）を理解する。
* シミュレーターの操作ができる。
* ブリーフィング・デブリーフィングにとらわれないで、様々な教育技法を学び、実践できる。
* インストラクターとしてのマナーを身につける。
* 各コースの趣旨、到達目標に沿った指導ができる。
* 受講者に応じた指導ができる。
* ブース内での役割分担を考え、チーム一体となった指導ができる。
* インスト経験者が，初心者に対し、ノウハウを提供し、インストを育てていくことの意義を理解する。
* 自身の指導経験を踏まえ、各々目標を持ってコースに望む。
* インストラクターとしての目標を持ち、継続的に研鑽することの意義を理解する。

**＜時間割例＞**

**ACLS大阪ではコース時間の規定はございませんが、ICLS認定指導者コースについては6時間　以上が規定となっていますので注意してください**



**＜自己紹介・宿題の発表＞**

* 時間は30 分間です。
* 自己紹介は、まず、ファシリテーターの方々からはじめていただき、次に、参加者の皆様にしていただきます。
* 参加者の皆様には、事前にいくつかの宿題を準備しております

【宿題】

①大阪府医師会HPにあるACLS大阪コンセンサスを読んでおいてください。

②「私が考える、良いインストラクションとは・・・」

③「ICLS コースに参加する受講生のバックグラウンドとは？」

①について皆さまの内容について疑問や質問を受け付けますのでどんな些細なことでも構いませんのでお聞きください。

②③については当日発表をしていただきます。

※②の宿題については、一切、コメント、フィードバックをつける必要はありません。ホワイトボードの片隅（裏側）や、紙にまとめておいて、一日の終わりに、それを見て、振り返っていただこうという趣向です。つまり、参加により、考え、行動がどのように変化したのかを、参加者の皆様と、ファシリテーターの皆様に実感していただきたいと思っております。

③の宿題のねらいは、これから行うロールプレイの舞台となるICLS コースを明確にイメージしてもらうことと、「成人学習とは？」というテーマの導入を兼ねています。ファシリテーターがある程度積極的に介入して、まとめていただいても結構です。

**＜成人教育技法・インストラクター心得に関する講義＞**

二次救命処置コースで広く用いられている成人教育技法の概説とインストラクターの心得について説明します。

**＜会場設営と資機材管理＞**

受講者のみなさまに人形型シミュレーターの設営を行っていただきます。

ここでは、

* 設営に必要な資器材のパーツを知ると共に、事前に資機材を確認することから、資機材

の紛失および破損しないように気を付ける重要性を学ぶ。

* 人形型シミュレーターの配置をするにはどのような点に気を付けるか

以上について考えてもらいます。

実際のコースではタスクが当然のようにシミュレーターの準備をしているのですが、この時間を

通じてタスクの仕事の重要性を理解してもらいます。

【準備するもの】

* 人形型シミュレーター
* その他資機材（除細動器、テーブルタップ・・・）

【進め方】

* コース会場の元の状態を確認し、人形型シミュレーターの中身を確認の上で、資機材の　紛失等のチェックを行う
* 人形型シミュレーターを配置する上で、窓の位置やコンセントの位置など配置を考える。
* 人形型シミュレーターをケースから出し組み立てる。
* 電源を入れ人形型シミュレーターを立ち上げる。
* いくつかの心電図波形を出してもらう。
* 電気ショックに反応するか確認する
* 胸骨圧迫波形が出るか、ログが出せるか確認する。
* 設営に関する注意点とタスクの重要性、物品貸し出し時のトラブルについて説明する。

【ここでのポイント】

・　人形型シミュレーターの部品は紛失しやすく、破損がないかを含め必ず事前にチェック

する必要がある

・　コース会場は設営前の状態に戻す必要がある。写真をとるなど事前の状態を把握した

上で設営に取り掛かる

・　コンセントの位置と受講生の導線を考えた人形型シミュレーターの配置

・　除細動器は音がうるさいため、各ブース間のスペースは十分に確保する

・　人形型シミュレーターを配置するテーブルの大きさや高さは適切か？

・　人形型シミュレーターのねじなどは適切に組み立てられているか

・　除細動器の位置は適切か

**＜シミュレーター操作法＞**

市立ひらかた病院小林正直先生作成の人形型シミュレーターの操作方法解説集を参考に

人形型シミュレーターの操作方法を学ぶ。

実際にシナリオを使用してみて、操作方法を理解するのもよい

【準備するもの】

* 市立ひらかた病院小林正直先生作成の人形型シミュレーターの操作方法
* 人形型シミュレーター

【進め方】

・　人形型シミュレーターの操作法について講義形式にて説明。

・　ファシリテーターのもとで実際に人形型シミュレーターの操作を体験してもらう。

・　操作方法を理解した時点でプレゼンター，受講者役を設定しシナリオ想定の上で正確に人形型シミュレーターの操作ができるか確認する。

【ここでのポイント】

・　リズムの選択か

・　シナリオ進行に応じてQRS波形の選択ができるか

・　呼吸、嘔吐、苦悶などの声が出せるか

　　　・　ログを出すことができるか

　　　・　血圧を出すなどの方法ができるか

　　　・　気道閉塞ができるか

【オプション：AEDトレーナーの操作法】

市立ひらかた病院小林正直先生作成のAEDトレーナーの操作方法解説集を参考に

各種のAEDトレーナーの操作方法を学ぶ。

【準備するもの】

* 市立ひらかた病院小林正直先生作成のAEDの操作方法
* 各種AED

【進め方】

　　　・　AEDトレーナーのシナリオ番号の設定方法学ぶ

　　　・　AEDトレーナー付属リモコンを用いたシナリオ進行方法を学ぶ

　　　・　電池の入れ替えができるか

　　　・　AEDパットのしまう方法

【ここでのポイント】

　　　・　シナリオ番号の変更が事前にできるようになっておくことで非ショックシナリオからショックシナリオへの変更などの対応ができるか

　　　・　電池の消耗により交換する必要があればどのように交換できるか

　　　・　リモコンを用いたシナリオ進行方法ができるか

　　　・　AEDパッドがきれいにしまえるか

**＜効果的指導法＞**

* このパートの想定は、「1:1 での指導」です。
* 参加者の皆様に気づいていただきたいのは、

指導者役を通して「指導する際に必要な、様々なパーツや、態度」

参加者役を通して「フィードバックの方法」

です。

* ２人一組となり、指導者役、受講生役にわかれて、あるテーマについて指導をおこなうというロールプレイを行います。（欠席者がおり、二人組ができない場合には、ファシリテーターが加わるなどの工夫が必要です。）
* 受講生役の方は、受講生を演じながら、ロールプレイ終了後に、「指導はどうだったか」をフィードバックする役割を負います。
* このパートは40 分間です。

二次救命処置コースでインストラクターをするために必用となる基本的な技術、知識を身に付けることを目標とします。指導の際に有用な技能（双方向手技、参加型手法の仕方等）といった、インストラクターに必要な知識・技術を修得するための実習を行います。

【準備】

* 受講者の人数分のイス
* ストップウォッチもしくはタイマー
* 手に取れる物（例：なべ, やかん，チョコレート等コース使用物品と全く関係のない物やコースで使用する物品の両方を準備しておくのがポイント）

【進め方】

* イスを最初は直線状に，１列に並べておく
* 2人のグループに分ける
* グループの中で１人が指導者役でもう一人の受講者に手に取った物を説明する
* ロールプレイ→解説、ロールプレイ→解説、を繰り返す
* 受講者に配るものは関連しないものとしないものを交互にしておくとスムーズ。

【時間配分例】

導入；3分→ロールプレイ1；2分→感想・解説5分→ロールプレイ2；2分→感想・解説5分→ロールプレイ3；2分→感想・解説5分→ロールプレイ4；2分→感想・解説5分→最後のまとめ・質問・ログシート記入；4分

【ここでのポイント】

①指導役

* 自己紹介をしているか
* 向き合っているか（イスの向きを変えるとなおよい）
* 物を受講者に触らせながら指導しているか
* 指導を始めてから物を受講者に触らせるまでどれくらいかかっているか
* 受講者の背景と基礎知識を把握しながら指導しているか
* 受講者の理解度を確認しながら指導しているか

②受講生役

* 何のためにフィードバックするか？
* その場で正確な知識・手技を身につける。
* 学び続ける気持ちにさせるにはどんなフィードバックがいいか
* フィードバックの方法にどのようなものがあるか

**＜ロールプレイ１：スキルステーション＞**

* このパートの想定は、1:1 での指導です。指導スキル1 の実践編にあたります。
* BLS、気道管理、モニターのスキルブースにおいて実際に指導をしていただきます。

【準備】

各スキルブースの人形型シミュレーター

ストップウォッチまたはタイマー

【進め方】

* 各スキルブースの中から１0分程度で指導できる項目（電気ショックの手技，気管挿管後の　確認など）を絞りこんだ上で、受講生が指導者側と受講生側に分かれて実際に指導を行った上で、指導終了後約5分程度で指導に関して「指導してどうか」「指導されてどうか」などディスカッションしていただきます。
* 受講生を４名ずつの2 チームに分けます。受講生が足りない場合はファシリテーターが入るなどの工夫が必要です。

【ここでのポイント】

* このパートでは、効果的指導法でディスカッションした内容(基本的な指導スキル、フィード　バックのスキル)を実践することにあわせて、「展示せず」 「しゃべりすぎず」 「教えすぎず」　に気づくことは、大切なテーマです。

**＜デモンストレーションの指導方法＞**

* 受講者のニーズに応じ、コースの目標となる完璧なデモンストレーションを行えるようになる。
* 受講生に伝えたいところを意識して伝える方法についてディスカッションしていただきます。

【準備】

* テキスト
* ストップウォッチまたタイマー
* ホワイトボードなど

【進め方】

* 4名ずつの２グループに分かれてデモンストレーションを行っていただき、それを全員で評価します。作戦会議5分、デモンストレーション時間8分、ディスカッション5分の予定です。
* 良いデモンストレーションについて全員で議ディスカッションをします。

【ここでのポイント】

* 短時間で重要なメッセージを伝えるためポイントを絞る。
* インストラクターの態度＝非言語メッセージも大切。
* そのシナリオで「ねらい」がしっかり受講生に伝えわったかどうか？
* 正しい用語が使えているかも重要

**＜ロールプレイ２：シナリオステーションでの指導法＞**

* シミュレーション学習におけるフィードバックの目的・方法を理解する。
* フィードバックの方法としてのブリーフィング・デブリーフィングを理解する。
* 受講者のディスカッションのファシリテーションが行える。
* 振り返りとしてのデブリーフィングの方法を知る。
* テキストなどの資料の使い方を理解し、効果的なフィードバックのために活用する。

【準備】

* テキスト
* ストップウォッチまたタイマー
* ホワイトボード
* 人形型シミュレーター

【進め方】

* 受講生4名+ファシリテーター1名を1グループとして、2グループを作成します
* 2つのグループで受講生側と進行側に分かれて、交互に進行側が中心となって

ブリーフィング→実技→デブリーフィングを行います。

デブリーフィング終了後にディスカッションを行います。

【ここでのポイント】

* 何のためにフィードバックするのか
* ブリーフィング/デブリーフィング技法に固執しすぎていないか
* 学び続ける気持ちにさせる
* 受講生を混乱することなくシミュレーションに導くことができたか。
* 活動記録を利用してうまくデブリーフィングが行えたか。
* デブリーフィングが気づきにつながったか。
* ディスカッション・デブリーフィングのファシリテートができたか。
* グループ全体でのシナリオの展開、リーダー役の回し方は適切であったか？
* 受講生をしてみてどうだったか。
* オペレーターとプレゼンターは息の合ったシミュレーションを展開できたか？
* テキスト・板書などの資源をうまくフィードバックに利用できたか？
* 受講生の目標にあったシナリオ設定をおこなうことができたか？

**＜振り返り＞**

* 「振り返り」では当日の振り返りで議論されたことをまとめていただき、宿題の発表

した自分たちの理想とするインストラクター像について振り返っていただきます。

* このコースには答えはありません。「気づき」を大切にしているコースですので一日を通してみなさまが体験しディスカッションしたことからの「気づき」が答えになります。

**＜後片付け＞**

* 現状復帰ができているか
* 資機材の部品の紛失がないか、チェックできているか
* 使用するにあたり問題はなかったか、問題があれば問題点をまとめられているか

**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンB（作成：小林正直【委員】）

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**【ACLS大阪　インストラクターコースの目標】**

（2003年2月　インストラクターコースを考える子WG資料を一部改編）

**一般目標**

　二次救命処置の内容を熟知し，その効果的な指導方法を実践できるインストラクターとなる

**具体的目標**

* 二次救命処置を医療従事者に普及させることの意義を説明できる。
* ACLS大阪のコンセンサス（コースの到達目標（必須指導項目），指導方法，用語等）を理解する。
* シミュレーターの操作ができる。
* 様々な教育技法を学び，実践できる。
* インストラクターとしてのマナーを身につける。
* 各コースの趣旨，到達目標に沿った指導ができる。
* 受講生に応じた指導ができる。
* ブース内での役割分担を考え，チーム一体となった指導ができる。
* インスト経験者が，初心者に対し，ノウハウを提供し，インストを育てていくことの意義を理解する。
* 自身の指導経験を踏まえ，各々目標を持ってコースに望む。
* インストラクターとしての目標を持ち，継続的に研鑽することの意義を理解する。

本資料は大阪府医師会二次救命処置インストコース資料（原案は日本救急医学会ICLSコース企画運営特別委員（当時）山岡先生の「WS のコンセンサスの概略Ver.3」）、耳原病院　緒方先生の資料、近畿大学　太田先生の資料、堀川先生の資料（特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会　AHA BLS/ACLS）をもとに構成しました。ACLS大阪ワーキンググループの提示する進行案の例には色々なパターンがありますが、本資料は、どちらかと言えば、スキルもみっちりやろうという配分になっています。

[参加者用資料の例](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料の例](#ファシリテーター用資料の例) 9

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) 9

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 10

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 11

[AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作) 5 [AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作Fa) 11

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 5 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 11

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 5 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 6 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 13

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 6 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 14

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 7 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 14



表をダブルクリックすると、改変できます

参加者用資料

[参加者用資料](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料](#ファシリテーター用資料の例) 9

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) 9

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 10

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 11

[AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作) 5 [AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作Fa) 11

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 5 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 11

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 5 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 6 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 13

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 6 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 14

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 7 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 14

＜はじめに＞

参加者の皆様、こんにちは

大阪府医師会二次救命処置インストコースへのご参加お申し込みをありがとうございます。インストコースと呼称したり、指導者養成ワークショップと呼んだりしますが、何か違うのでしょうか？インストコースといえば、指導技法を学ぶのが主な目的です。一方、ワークショップ（WS）とは、志を同じくするものが集い、話し合い、その成果をまとめる作業を言います。まとめたものはプロダクツと呼ばれます。[過去のWSのプロダクト例](https://drive.google.com/file/d/1hKA9jE2ZjJspubW23B824LQEX_hS9b6_/view?usp=sharing)を参考にして下さい。

おそらく、みなさまは、「受講生の皆さんに、楽しく、意欲的に学んで頂くためにはどうしたらよいのだろう？」とか、「受講生の皆さんが、『受講してよかった！』と思えるような指導をするためにはどうしたらよいのだろう？」という悩みを持って、このWS へお申し込み頂いたのではないかなと思います。あるいは、漠然と指導者養成講習会に参加すればいろいろと教えて貰えると受け身参加される方がおられるのかもしれません。

このWS は、「インストラクターとして備えておくべき、二次救命処置の知識や技術を学ぶ場」ではなく、簡単に言えば、「教え方講習会」ということになります。ただ、教え方の小手先のテクニックを学ぶ会ではなく、受講生の皆さんが効果的に学ぶためにはどうしたらよいかを考える会です。難しいですね。一日が終わる頃には、漠然と、どういうことなのか見えてくるかもしれません。そして、その底辺には「きちんと二次救命処置ができる」蘇生の基礎的なスキルとチームダイナミックスを動かすパフォーマンスが必要です。基礎的なスキルとパフォーマンスがないところに教え方を積み上げようしても、きちんとした二次救命処置講習会にはなりません。

「ワークショップ」とは、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者に対して自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するというものです。従って、皆さん方に、積極的に体を動かして頂き、考えて頂き、ディスカッションをして頂きます。WS のファシリテーターは、あくまで司会進行役です。一方的に、知識や技術を押しつけたりしません。指導者といっても、みなさんより、少しだけ早く、インストラクターという世界に飛び込んだ先輩達です。みなさんたちと一緒に、悩んだり、考えたり、楽しんだりしたいと思っています。ファシリテータは、参加者のディスカッションが詰まったときにヒントを出します。あるいは、間違いがあった時にヒントを出したり、指摘したりします。

一方、指導方法について学びを求めて参加する人を従来は受講者と呼んできましたが、用語としてやや受け身な感じがしますので、WSでは参加者と呼んだ方が適切と考えられています。ワークショップ（WS）とは、みんなで作り上げるという意味あいが強いためです。コースの主人公は皆様方参加者なのです。間違いをおそれず、いろんなことをやって、そして、いろんなことを発言して、楽しんでください。二次救命処置コースと一緒ですね。

この資料では、WS の一日をどう過ごすのか、簡単にご紹介します。

* 基本、参加者自身でディスカッションしてください。内容をメモとして[**ログシート**](https://drive.google.com/open?id=0BwDLGu4uNxwvc1hGZnNUSjI4Nnc)に書き込んでいってください（当日必ず印刷の上お持ちください）。このログシートが無形の宝となるはずです。
* 皆様でディスカッションした内容は1週間後までに「プロダクト（成果）」として、発表をしていただきます。

では、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

**WS 参加までに、宿題があります。以下をお読みください。**

＜宿題Σ（￣□￣;）＞

WS においで頂くまでに、三つの宿題をこなしてください。絶対、忘れないように（｀･ω･´）b！！

**宿題1**： まず、「ACLS大阪コンセンサス」を読破して下さい。

「ACLS大阪コンセンサス」はこちら→　<https://www.osaka.med.or.jp/img/doctor/acls_consensus_2015.pdf>

その上で、判りにくいことはなかったか、いくつか列挙して下さい。

箇条書き、２，３個で結構です。[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。

**宿題2**： 「みなさまが考える、「良いインストラクション」とは、どのようなものですか？」

具体的な表現でなくても良いですよ。自分が、「こんなインストラクションができるようになりたい！」と思っていることや、他のインストラクターを見て、「ああ、こんなインストラクションができたらいいなあ！」と思っていること、あるいは、まだ、インストラクションの経験がない方であれば、「コースで指導してもらった、あのインストラクターの、こんな指導が頭に残っている！」ということでも良いです。そんなことを、[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。箇条書きで、2,3 個程度で。要領よくまとめることも練習です！

**宿題3**： 「ICLS コースに参加する受講生のバックグラウンドは？」

みなさまが、これから指導に関わるICLS コースの受講生には、どのようなバックグラウンドがあるのでしょう？バックグラウンド（背景）という表現は、漠然としていてわかりづらいですね。例えば、職種、年齢、経験年数、心肺蘇生に関わる頻度といったことから、コースにどのようなことを求めているのか？どのような環境で学びたいと思っているのか？といったことまで、様々なバックグラウンドが想像できると思います。一般的な話でも良いですし、最近のコースではこういう受講生が多いよね？ということでもかまいません。

これも、[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。箇条書きで、2,3 個程度で。要領よくまとめることも練習です！

**＜宿題の発表＞20分間**

当日、まずは、各自でやってこられた宿題について、参加者間でディスカッションして下さい。時間がかなり限られていますので、1と2または1と3についてディスカッションして頂き、時間管理もしっかりと行ってみて下さい。

**＜****機材準備、設営、タスクの役割＞40分間**

まず、会場の設営作業をしてみましょう。徹営の時は、同じ人間がもとの場所に返却して下さい。コンセントの3Pアダプターなど小物が良く紛失します。また、借用した場所のもともとの配置がわからなくなったりします。したがって、「○○一式でOK」ではなく、一式の中に何があったかを書き出してリストを作っておくか、写真を撮っておいて下さい。この部屋のここらへんにベッドを置いてあったとか、メモや写真を残しておいて下さい。使用するベッド/ストレッチャーのシーツが汚れるといけませんので、紙シーツを敷いておいて下さい。また、普段はタスクの方が準備して下さっているため、インストが機材準備や管理をしないこと、できないこともあります。インストラクターになるためにはタスクもできないといけません。認定インストになるためには、少なくとも1回はタスク参加をしておきましょう。

**＜****AEDトレーナーの操作＞20分間**

8名に対して、AEDトレーナーが3台あります。参加者は3つの組に分かれて下さい。[AEDノート](https://drive.google.com/file/d/1mh8sp9EVMbDFd0DQiMW_epNtBuBtQ4df/view?usp=sharing)の該当ページを見ながら以下のテーマを実践してみて下さい。

1. 電池のセットと電池の取り外し（蓋を破損しないように）
2. シナリオ番号の設定と確認
3. シナリオの進行（パッドを貼った時の解析）
4. シナリオ変更（ショック必要とショック不要）
5. パッド（特にコード）の正しい収納のしかた
6. 電池の取り外し

**＜****人形型シミュレーターの操作＞50分間**

人形型シミュレーターが8名に1体あります。

設営後、「人形型シミュレーター」について勉強します。シナリオステーションで、胸骨圧迫したり、人工呼吸をしたり、電気ショックをしたりする、あのシミュレーターです。体験すべき順序に項目を並べます（10番以降は時間がなければ割愛可）

1. 起動とシャットダウンのしかた
2. シナリオの開始方法とタイミング、種々のリズムの変更方法
3. 気道閉塞のしかた、声の出し方
4. ヘッドセットでの声の出し方
5. シナリオ終了とログの保存、閲覧
6. 胸骨圧迫や換気のデータの読み方、フィードバックのポイント
7. 無線接続がうまくいかない時の人形型シミュレーターとシムパッドの有線LAN接続
8. 空気の注入と自発呼吸の出し方を知る。自発呼吸させてスキンをめくって自発呼吸のしくみを理解する。自発呼吸があるときに、胸骨圧迫をしてはいけないことを視覚で理解する。
9. 下肢と骨盤の分離と接続
10. トラブルシューティング、管理（久しぶりの充電等）
11. ペイシェントモニターPCとのワイヤレス接続のしかた
12. ペイシェントモニターの起動とスキルレポーターの起動
13. 人形型シミュレーターの片づけ
準備、片づけを体験することで、人形型シミュレーターの仕組みを理解したり、とくに、どのパーツに気をつけて使用したらよいかを知ることができます。なお、片付けは、一日の最後、振り返りのときに行います。片付けだけでなく、清拭（借りたときより綺麗にして返すこころ）、不具合発生時に放置せず報告することの重要性も理解する必要があります。

人形型シミュレーターの操作の仕方について、予習は必ずしも必須ではありませんが、「ちょっと勉強しておかないと不安」という方は、[人形型シミュレータークイックマニュアル](https://drive.google.com/file/d/1nsIhLpPkiJHyhXY8kdDj7GnRE2iAZfhl/view?usp=sharing)、[ミニマニュアル](https://drive.google.com/file/d/15ggzAG2I24-bCzZVPAFfFiE4ZJCME-Wh/view?usp=sharing)をお読みになることをお勧めします。当日、印刷したものは用意しておきますので、各自が印刷して持参しなくても大丈夫です。

**＜効果的な指導法＞30分間**

ここでは、ちょっとしたゲームを通して、効果的な指導法やフィードバックの方法を考えてみます。

みなさんは、「成人学習」とか、「インタラクティブ」とか、「ポジティブフィードバック」といった言葉を聞いたことがありますか？それぞれ、一体、どのようなものなのか、はっきりイメージできませんよね。

理屈はちょっと置いておいて、実技を通して、受講生によりよい学びをして頂くための方法について考えてみましょう。このブースで気づいたことを、この後のブースで活用していきます。

あまり硬いことを考えずに、楽しんで頂きたいと思います。

**＜昼食＞50分間**

昼食が終われば、2つの宿題について、参加者の間で話し合って下さい。最後にまとめて頂きます。

**＜****スキルステーションでの指導＞50分間×2**

8名の参加者は4名一組の子ブースにわかれて下さい。各子ブースでは一人のインストラクター役が3人の受講者役を指導するシミュレーションを行って下さい。テーマごとにインスト役と受講者役を交代していきましょう。一つのテーマを行うたびに、「教えてどうだった？」「教わってどうだった？」と簡単にディスカッションして下さい。一つのテーマを約15分間（指導10分・ディスカッション5分）で時間管理して下さい。テーマは以下を例として下さい。

【モニターでのテーマ】50分間

パドルでのショック

パッドでのショック

AEDモード

【エアウェイでのテーマ】50分間

バッグ・マスク換気（片手法、両手法）

気管挿管の準備

挿管後の確認

**＜****デモンストレーションの実践＞30分間**

**See one, do one, teach oneです。**

* コースでスキルの時間が終わり、いよいよシナリオの時間となります。ブースリーダーがシナリオの進め方を解説します。そのあと、イメージを持って貰うためにデモを行うことがあります。動画で見せるコースもありますが、生デモができるようになって下さい。
* デモを計画・実行することで、デモの意義と伝えることの難しさ，伝え方について学んでもらいます。インストのデモが悪いと受講者もきちんとできませんので、責任重大です。デモができてはじめて一人前とも言われています。ですから、デモの経験をやってみましょう。
* 分担決定、デモの練習、デモの実施、ディスカッションを1クールとして下さい。最低1クール、できれば、役割交代して、合計2クール実施して下さい。
* 時間管理もできるようにしましょう。
* 分担決定はインスト役と受講者役（見る役）に別れて下さい。ファシリテータやコーディネータを使っても構いません。デモ終了後のディスカッションではデモ側はまず、デモしてみてどうだったか？上手くいった点は？改良点は？受講者役はテーマ・ポイントは上手く伝わったか？良かった点は？改良点は？について議論して下さい。
* 重要なポイントの例は以下です。
CPRの質の確認を行えているか？
換気の確認を視診のみならずカプノを併用しているか？
スニッフィングポジションを意識しているか？
酸素・リザーバを継続的に確認しているか
チーム全体がクローズドループコミュニケーションで一つの生き物のように協調して動いているか？
「離れて」と言う直前まで胸骨圧迫を行わせているか？
空中充電していないか？空中でパドルを開いていないか？（胸にあてるまで、パドルを閉じているか？）
離れた瞬間に充電ボタンを押せているか？
メンバーが離れてからパドルを胸壁にあてたりしていないか？
パドルをあてる前に腕や衣類、リード線をクリアしているか？
充電完了してから安全確認を開始したりしていないか？
原因検索（からだ、カルテ、家族、かんたんな検査）を行っているか？
* WSまでにコアスキル（特にCPR、バッグマスク換気、電気ショック）はコースガイドをよく読んで、あるいは[学研の付属動画](https://goo.gl/tCYRx9)を見て、イメージトレーニング（例えば枕を相手に頭の中で、まずこうして、次にああして…といった具合に）を行ってください。

**＜****シナリオステーションでの指導法＞120分間**

シナリオステーションのときの、インストラクターの役割（係）にはどのようなものがあるのでしょうか？神の声（想定を付与）を出したり、シムを操作したり、ブリーフィング・デブリーフィングの司会をしたり、時には間違いや抜けをズバリと指摘したり・・・。コースに参加すると、「新人さんでも、一度は、プレゼンをしてみましょう」なんて言われますが、頭が真っ白になって何もできなかったという経験があるのではないでしょうか？

ここでは、みなさまに、インスト役を体験して頂きます。インスト役2名（プレゼン係1名、記録者の補助係1名）、受講者役6名（リーダー役1名、記録役1名、その他4名は適宜）にわかれて、一つのシナリオごとに役割交代していって下さい。一つのシナリオが終われば、普通通りデブリを行います。通常コースではここで次の目標を掲げ、作戦会議（ブリーフィング）と流れて行きますが、WSでは常に「教えてどうだった？」「教えられてどうだった？」というディスカッションを加えて下さい。

インストが喋りすぎるのもよくないですが、介入ができないのもよくありません。例えば、ブリーフォングやデブリーフィングで全く意見が出ずに、毎回「うまくできなかった」「うまくコミニュケーションできなかった」を繰り返していて全く、進歩できないケース。受講者は二次救命処置のスキルがかなりできていないのに、デブリーフィングでその議論が出ずに「シャンシャン」で終わっているケースなどがあります。

ディスカッションのポイント例

* 状況設定は適切に伝わっていたか？
* 受講生を混乱することなくシミュレーションに導くことができたか？
* 受講生のレベルに応じて臨機応変にシナリオを変更できたか？
* シナリオのポイントが受講生に伝わっていたか。
* フィードバックは他の受講生にも伝わっていたか。
* コンストラクティブなフィードバックができていたか。
* 具体的なフィードバックを行うことができたか。
* 非言語的な表現、インタラクティブな手法を活用したフィードバックを活用できたか。
* 受講生をしてみてどうだったか。
* 受講生のニーズにあったシナリオ設定をおこなうことができたか？
* グループ全体でのシナリオの展開，リーダー役の回し方は適切であったか？

**＜各ブースでの振り返り＞20分間**

「振り返り」では当日の振り返りで議論されたことをまとめていただき、グループの代表者が最終的にまとめ、**コース終了後1週間以内にはメーリングリストに投稿していただきます**ので心の準備をしておいてください。書記・責任者などを決めておいて下さい。「振り返り」をまとめておかないとワークショップは終わったことにはなりません。[過去のWSのプロダクト例](https://drive.google.com/file/d/1hKA9jE2ZjJspubW23B824LQEX_hS9b6_/view?usp=sharing)をアップロードしておきます（コピペしちゃダメですよ）。

**＜機材の終了後点検、清拭、返却＞30分間**

借用者がもとの通りに返却する、会場を元通りに復元する。

元より綺麗にして終える。

**＜懇親会＞90分間**

どうしても帰宅したいという方に強制はできませんが、原則として全員参加で御願い致します。

**＜その他＞**

* 共有フォルダ内に各種資料がアップされていますが、参加者記入用[**ログシート**](https://drive.google.com/open?id=0BwDLGu4uNxwvc1hGZnNUSjI4Nnc)は当日必ず印刷の上お持ちください。宜しくお願い致します。
* **禁止用語**については、当日講義したりしませんので、[**用語の問題**](https://drive.google.com/file/d/180G7YtAc5NSq83DNTH3fcO02uSkMNdjW/view?usp=sharing)を**必ず読んできて下さい**。
いまだにインストさんが「サチあるいはサーチ」と言ったり、「ディーシー」、「シーピーエー」と言ったりしています（怒）。
* WSや指導方法については、以下の書籍が参考書となります（購入・持参は必須でありません）。
* [日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック](https://www.amazon.co.jp/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%80%85%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF-%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9%E4%BC%81%E7%94%BB%E9%81%8B%E5%96%B6%E5%A7%94%E5%93%A1/dp/4758117160/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1545653609&sr=8-1&keywords=%E3%83%BB%09%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%80%85%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF)
* 学研メディカル秀潤社「[改訂第3版BLS/ALS：写真と動画でわかる一次/二次救命処置](https://goo.gl/tCYRx9)」

BLS：　116-120、121-124、182-187、188-189ページ

ALS：　14-17、59-61ページ

では、コースでお会いできることを楽しみにしております。

ファシリテーター用資料

[参加者用資料](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料](#ファシリテーター用資料の例) 9

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) 9

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 10

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 11

[AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作) 5 [AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作Fa) 11

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 5 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 11

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 5 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 6 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 13

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 6 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 14

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 7 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 14

＜はじめに＞

大阪府医師会二次救命処置インストコース へのご参加を頂き、ありがとうございます。指導者養成を目的としたコースやワークショップ（以下、WS） では、例えば、「positive feedback」などの数々の用語を提示し、さらに、「指導法かくあるべし」という解説に終始してしまうことが、ままあります。このWS では、指導者養成のための取り組みにおいて、「指導法かくあるべし」と押しつけるのではなく、指導者として成長していく中でヒントとなることに「気づく」、そして、現場(コースなど)に「還元」することができることを目標としてきました。WS の中心をなすのは、もちろん、参加者の皆様です。我々は、ファシリテーターとして、参加者が考え、気づくのを手助けすることになります。「ファシリテーター」という言葉を聞いたことがない方もいらっしゃると思います。参加者の皆様へ配布した資料に、以下の記載があります。

「ワークショップ」とは、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するというものです。従って、皆さん方に、積極的に体を動かして頂き、考えて頂き、ディスカッションをして頂きます。WS の指導者ファシリテーターは、あくまで司会進行役です。一方的に、知識や技術を押しつけたりしません。指導者といっても、みなさんより、少しだけ早く、インストラクターという世界に飛び込んだ先輩達です。みなさんたちと一緒に、悩んだり、考えたり、楽しんだりしたいと思っています。間違いをおそれず、いろんなことをやって、そして、いろんなことを発言して、楽しんでください。二次救命処置コースと一緒ですね。

イメージできますでしょうか？WS には、「こうあらねばならない、こう伝えなければならない」という細々とした目標は不要です。参加者の皆様と行動をともにし、彼らのディスカッションに耳をかたむけ、ときに、参加者が「あっ！」というような、ヒントを提示する。そして、一日が終わる頃には、参加者によい気づきと、学びが生まれており、彼らの指導に変化が加えられる・・・。こういう指導を、我々は、「○○○○○○○○」な指導。と呼ぶのでしたね。

＜この資料の位置づけ＞

* この資料を読まれる前に、まず、ファシリと参加者用資料をお読みください。この資料「ファシリテーターのみなさまへ」は参加者さんにはお渡ししておりません。

＜ファシリテーターとは？はじめてWS に参加される方へのアドバイス＞

* ファシリテーターとは、参加者の皆様が学ぶ環境を整える役割です。具体的には、会場をsetting することにはじまり、ディスカッションのテーマを提示したり、よりよいディスカッションが行われための工夫をしたりします。司会進行役ととらえられることもありますが、皆様なイメージするところの「司会」は、参加者の中から選出して、任せることもできます。
* 一般的な役割は上記の通りなのですが、ある程度、ファシリテーターが、流れや結論をコントロールする必要に迫られることもあります。例えば、意見が全く出ないとき、議論が停滞したとき、結論があらぬ方向へ流れそうなとき・・・とくに、議論が停滞し、参加者が、上手な結論を見いだせないときに、キラーパスのような鋭い一言を入れてあげると、参加者が「あっ！！」という反応をして、一気に雰囲気が良くなり、議論が進みはじめることがあります。
* とくにご活用いただきたいのは、ホワイトボードです。この、真っ白のスペースが有効に活用されたとき、参加者に、大きな気づき、学びを与えることができます。ディスカッションの中で出た意見は、そのまま聞き流せば、永遠に失われてしまいますが、それをホワイトボードに書き留め、上手に整理(organize)し、よりよいまとめへの誘導の手段として利用できれば最高です。
* ファシリテーターであることを意識するのは大切ですが、これは、必ずしも「こちらから意見を述べてはいけない」ということではありません。上記のように、参加者に積極的に関わりながら、上手に調整を行ってください。「教えてもらうんだ」！という考えでやってきた参加者に、ときには、回答を示して上げることも必要でしょう。これら、様々な関わりを持って、「調整(facilitate)」と表現します。ブースメンバーには、ベテランの方もおられます。ベテランの方法やブースの雰囲気を見ながら、積極的に関わってみてください。そして、楽しんでいただきたいと思います。
* 平素のICLSでもインストラクションからファシリテーションに変わってきています。インストやファシリテーターはインストラクションよりもファシリテーションに心がける方向になってきました。しかし、全然できていないのに、受講者や参加者の議論の中から問題として抽出できていなかったり、問題としてあげることはできても、解決に繋げることができないまま流れていって1日が終わるといったケースも見受けられます。スキルセッションの部分ではファシリテーションよりもインストラクションが重要になっても構いませんし、シナリオの時間になっても、コアスキルができていない時は流れを止めてでも、指摘をして、「もう一度やってみましょう」と判断をしないといけないこともあります。



* 上図にまとめをログシートに書き込むとありますが、ホワイトボードに書いたものを写真撮影しても結構です。参加者の議論からできあがって文章に残されたものをプロダクトと呼びます。インストコースにはプロダクトはありませんが、WSではプロダクトは必須です。参加者とファシリでよいプロダクトを産んで下さい。

**＜****宿題の発表＞20分間**

まずは、各自でやってこられた[宿題](#宿題)について、参加者でディスカッションして頂きます。ベテランインストという方でも「コースごとのコンセンサスは読んでいるけれども、ACLS大阪のコンセンサスを読んでいない」という人が見受けられます。ACLS大阪のコンセンサスを熟読して頂くために、宿題の1を必須としました。ここでは、与えられた宿題をきちんと行うこと、時間管理もしっかりと行いながら、みんなで話し合うこと、を目的としています。

**＜****[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa)＞50 分間**

* 開始前に、必ず、シムの収納状況の確認、動作確認をしておいてください。決まった場所に納められているでしょうか？不足している部品はないでしょうか？動作するでしょうか？
* このパートは、WSのスキルステーションといってもよいでしょう。参加者にとっては、「指導してもらう」、ファシリテーターにとっては、「指導する」という要素があります。
* 会場設営では、できれば、参加者からリーダー役を出していただき、配置の決定、椅子、机の配置のシミュレーションをやっていただきます。このリーダー役の方が大変有能な方であると、上手に役割分担を行い、効率よく作業が進むため、参加者によっては「あれ？私、シムの出し方を見てなかった」という状況になってしまうこともあります。そこで、机、椅子を配置した後、リーダー役の方に、「ここまでで結構です。お疲れ様でした。」とお伝えし、その後は、ファシリテーターが主導し、参加者全員で、シムをセットアップする作業を進めていってください。
* WSを通じて、我々が伝えたい「双方向性」。これを意識して指導に当たってください。ファシリテーターがしゃべり続けて、参加者が突っ立っているということはないでしょうか？参加者がみんな、身を乗り出してシムやPCを見つめ、積極的に手を出しているでしょうか？
* 会場設営で、注意すべきことは？こちらから、一方的に説明するのでなく、受講者のみなさまに気づいていただいてください。以下の考察ポイントを参考に参加者に議論して貰うようしむけましょう。

【レイアウト】

* 受講者の動線、インストラクターの動線
* 出入口、窓、電源（コンセト）の位置と関係（窓に向かっての喉頭展開は難しいです）
* 電気配線（ひっかけたりしませんか？かといって質の悪い養生テープで貼ると、糊でべちゃべちゃになります。貼ればいいってもんじゃあありません）
* 荷物置き場や、受講者がチョット座る配慮はできていますか？
* 除細動器の位置（どのように置くのがやりやすいですか？左からアプローチですよね）
* 最後に現状復帰するための工夫

【貸出物品の取り扱い】

* 物品に不備・足があった場合の工夫
* チェックリスト
* 写真保存など
* 後片付け現状復帰のため工夫

**＜****AEDトレーナーの操作＞30 分間**

* 参加者が優秀なら、「テーマに沿って、AEDノートを見ながら、どんどんとやりなさい」で進むと思います。しかし、消極的だったり、進まなかったりすれば、インスト主導で、インストラクションして下さい。また、間違っていたら介入して下さい。AEDのパッドをきちんと収納できない・あるいはしようとしないインストが結構います。動画　[シムならびにトレーニング電極　扱い方についてのお願い](https://youtu.be/MhO0e2EZrGE)をご覧下さい。

**＜人形型シミュレーターの操作＞　合計50分間**

* 人形型シミュレーターの基本操作を実習してもらいます。
* 参加者資料に書いてある項目以外に、以下も説明して下さい。

シムを借りてきたら、念のため一晩体幹内のバッテリーに充電しておくこと

パッド、本体のバッテリー残量の見方

シャットダウンのしかた

**＜****効果的な指導法＞30分間**

* ステーションの目的：少人数実技中心のコースで、効果的に教えるための指導法を経験する。
* 二人一組となり、指導者役、受講者役にわかれて、あるテーマについて指導をおこなうというロールプレイを行います。
* 欠席者がおり、二人組ができない場合には、ファシリテーターが加わるなどの工夫が必要です。
* 物品を渡された方がインストラクター役、もう一方が受講者役となってロールプレイし、2分間で渡された物品の説明をする。受講者役の方は、受講者を演じながら、ロールプレイ終了後に、「指導はどうだったか」をフィードバックする役割を負います。
* 実技を始める前に、ルールについて、しっかりと説明を行い、納得していただいてください。これは、WS のどのパートにも共通する注意事項です。ロールプレイの方法について、あるいは、どのような役割を担当するのかなどについて、十分な説明が行われない状態でスタートすると、参加者の皆さんに混乱が生じたり、ロールプレイ後のディスカッションにおいて、良い結果を得ることができません。
* 受講者役の方に、「指導者役の指導方法についてのフィードバックをお願いします」と、明確に示すのがコツです。
* 進行と時間配分の例
	+ 1. 導入・準備（5 分）

2名ずつペアー（できればベテランと初心者）で、向かい合って座ってもらうこの時点では参加型、双方向といった言葉は使わない。

* + 1. プレゼンテーション　指導・説明（2分間）

1 組に 1 品ずつなべ・やかん～ICLS に使用する道具を渡し、相手に伝わるように

* + 1. 振り返り・感想（1 分間適宜短縮可）
		2. 全体で順番に感想（7分間）

説明をした側 → 説明を受けた側

※説明を受けた側に「どう説明してもらったらより伝わったか？」を挙げてもらう 説明をした側に「説明してみてどうだったか？」

→ ホワイトボードに出た意見を板書して、最後にまとめる。

1. 説明する側とされる側が交代

道具も回す。前回の反省を踏まえて、模擬指導→振り返りを実施

* まとめ

＜観察ポイント＞

* 自己紹介をしているか
* 適度な距離感か（イスの向きや並びなどを工夫しているか）
* 物を受講者に触らせながら指導しているか
* 指導を始めてから物を受講者に触らせるまでどれくらいかかっているか
* 受講者の背景と基礎知識を把握しながら指導しているか
* 受講者の理解度を確認しながら指導しているか

＜考察ポイント＞

* コミュニケーションのための雰囲気作りはどうだったか？

自己紹介 相手を名前で呼ぶと親近感

横を向いたままではなく、向き合うようにする。(目線や距離感を上手く使う)

スペースを自由に使うこと

非言語的・準言語的メッセージを効果的に使う

表情、身振り手振り、うなづき、声のトーン、話し方

* 到達目標の設定はどうだったか？

何を最低限伝えたいかを設定する

到達目標は受講者のレベルにあったものか？（例えば、看護師さんに気管挿管手技）

相手のバックグラウンド、相手のニーズを探る　「双方向的手法」「これをご存知ですか？」

到達目標を最初に挙げてもよい

最初から到達レベルに達している場合どうするか？(麻酔科医に気管挿管手技)

逆に相手に説明してもらう（丸投げではなく、相手のﾌﾟﾗｲﾄﾞをくすぐるように）

「これでいいんですよね？」と同意を確認しながら進めるのも一案

相手に他の受講者レベルに合わせてもらう

「ご存知だと思いますが、確認(復習)の意味で説明しますね」

* 一方的な指導にならない工夫 　参加型手法

できるだけ物に触れてもらい、体験してもらう

* 双方向的手法 　適宜質問や確認を交えながら対話形式ですすめる

相手の背景を知る。まずはどこまで知っているか尋ねる。

「これはご存知ですか？」 それを基礎にして指導することで、短時間でも効果が上がる。

相手が自分よりも知識があれば、逆に教えてもらってもよい。

質問もしくは確認の時間を設ける

* ※「伝える(指導する)には、十分な知識が要る！」という気づきも重要です。山岡先生によれば、「なべやかん」では、やはり、「なべ、やかん、お玉、ざる、おろし金」などが絶妙で、お菓子、筆記用具などを用いたケースでは、どういうわけか、うまくいかないとのことでした。

**＜****スキルステーションでの指導法＞50分間×2**

考察ポイント

* 基礎スキルがきちんとできているか？

教え方を話し合う会であるWSでスキルができていなかったら、話にならないですが、不十分な場合は介入するしかありません。

* 参加型・双方向型指導法

一方的な指導になってなかったか？

十分体験してもらったか？

適宜質問・確認を入れましたか？

しゃべっているだけの時間

受講者が実際に実技をしている時間　　　ディスカッション

受講者が道具を手にしている時間

* 受講者に心地よい雰囲気作り

複数を相手にする際の視線やうなづき、問いかけの方法

上手にほめる

* 時間内にまとめる工夫

ポイントが上手く伝わったか？（優先順位 到達目標）

多くを伝えようとするとポイントがわからなくなりがち 強調すべき点を絞る

まとめや質問の時間をとる

* フィードバック

効果的なフィードバックとは？

気づきが多い 行動や知識が向上する など

効果的なフィードバックをするために気を付ける点は？

その場で即座に行う

具体的・描写的に

理由や根拠を明確

簡潔に、短い言葉で

ひとつずつ

攻撃的にならない

非言語的メッセージや準言語的メッセージを上手に使う（うなずき、相槌など）

相手の言動を否定しない

オウム返し（共感）

ただし、伝えるべきことは伝える。

「それだと不十分だよ」と足りない個所を指摘する技術も必要。

**＜****デモンストレーションの実践＞30分間×2**

「受講者にこんなデモ見せたらあかんやろう」というところがあればつっこんで下さい。受講者レベルの参加者には、インストと呼んで差し支えないレベルまで昇華して頂かなくてはなりません。

**＜****シナリオステーションでの指導法＞120分間**

考察ポイント

* 受講者の目標（ニーズ）に合ったシナリオ設定ができたか
* 介入の仕方は適切であったか
* オペレーターとプレゼンターは息の合ったシミュレーションを展開できたか
* デブリーフィングのファシリテートができたか、G・A・S（後述）を使っているか？
* 蘇生記録を利用して上手くデブリーフィングができたか

（ログを用いたフィードバックが上手にできたか）

* 補足説明や質問に対する応答が上手くできたか
* テキスト・板書などの資源を上手く利用できたか
* 受講者役をしてみてどうだったか

ディスカッションのテーマの例

より良い介入の方法は？

受講者が混乱している場合、止めるべきか？ or カンペなどを提示して誘導すべきか？ 等

危険な行為の時、止めるべきか？ or スルーして後で振り返るか? 等

振り返りで問題点が気づかなかった場合 、誘導するか？説明するか？再現するか？

同じことばかり「●●ができなかった、次回は●●ができるように頑張ろう」を繰り返す受講者

しゃべり過ぎではないか？ 誘導してないか？

まず「どうでしたか？」と尋ねる（双方向）

オウム返し うなずき・相槌（共感）

積極的傾聴

具体的・描写的に・簡潔に 「○○の場面ですが、」 コースガイドを示しながら

指摘（フィードバック）すべき項目が多い場合どうするか？

振り返りが本来のテーマから逸れた場合の軌道修正はどうする？

受講者からの質問に対する応対の仕方は？

分からないままにしない

ごまかさない →自信がなければ、後で調べて答える

GAS method(参考)

1. 収集 Gather

受講者による観察

ランダムで自由に反省点（よかった点、悪かった点）を思いつくまま集めることです。

1. 分析 Analysis

集めた情報を分類して（よかった点と悪かった点、リーダーがすべきこととメンバーがすべきこと、など）具体的に分析していきます。

1. まとめ Summarize

分析結果をまとめて改善すべき点、次のシナリオに生かす点などをまとめていきます。

G・A・Sを一言で言うと、「何が問題だったか、なぜ問題が起きたか、どうしたら問題の再発がおきないか」を考えることです。G・A・Sを使ってデブリーフィングする方法を身につけて頂き、ICLSだけでなく日常の活動にも応用して貰いたいですね、

指導上のポイント

* インストは自分の意図通りに誘導してしまわないように、サマライズ以外は受講生の主体性に委ねるのが理想です。
* 受講生から自由な意見が出にくいのは、インストラクターが自由に語らせる雰囲気を作り出していないことが原因の場合もあります。
* 成人は自分で問題点を見出し、自分で解決できることで満足を得ます。
* 受講生とインストラクターは、同じ成人という意味で対等な関係です。
* インストラクターと受講生に上下関係を築くかぎり、自由討論はできません。
* 話し合いには時間が必要です。方向性は示しても話し合いを誘導せずに自立したディスカッションを見守る姿勢が必要です。
* ディスカッションとただのおしゃべりは異なります。散漫な話し合いのまとめにはインストラクターが関与することが必要なケースがあります。
* インストラクターも成人教育者のひとりであり、自らも学ぶことが必要です。
* 知らなかったことを知る喜びは受講生が学びから得る満足と同じです。
* テクニカルスキルだけでなく、ノンテクニカルスキルも伝えられるようなインストラクションを目指してください。
* 蘇生講習会はその時間内で完成させる（完成できるわけもなく、受講直後から忘れられていきます）のが目的でなく、自分たちのチームで最善を求めて常に検討していくスタイルを身に付け、さらに前に進もうとする意欲を持ち帰ってもらうことが大切です。
* 職場で生かせるチーム医療をどうやって身に付けるか？です。その意味では胸骨圧迫や換気の仕方といった技術的指導に加え、チーム医療の進め方や現場で居合わせたメンバーだけでどうやって解決していくかの手法（ノンテクニカルスキル）の習得が大事です。
* インストラクターには個々の技術（テクニカルスキル）の指導に加え、ノンテクニカルスキルを伝える技術を身に付けることが望まれます。
* G・A・Sを参加者に使って貰うために、「何が問題だったか、なぜ問題が起きたか、どうしたら問題の再発がおきないか」と白板で板書するのも手。
* 参考資料：学研メディカル秀潤社「[改訂第3版BLS/ALS：写真と動画でわかる一次/二次救命処置](https://goo.gl/tCYRx9)」

BLS：　116-120、121-124、182-187、188-189ページ

ALS：　14-17、59-61ページ

**＜おわりに＞**

各パートで、「これについて伝えたい！」と考えていても、なかなか、うまくいかないことが多いものです。一日を通じて、理解していただきたいことを明確にしておき、各パートのおおよその目標をイメージしておく。そして、参加者の皆様の意見に敏感に反応し、そこから、議論を発展させてください。そして、議論を上手にまとめてください。

**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンC（作成：新藤光郎【委員】）

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**【ACLS大阪　インストラクターコースの目標】**

（2003年2月　インストラクターコースを考える子WG資料を一部改編）

**一般目標**

　二次救命処置の内容を熟知し，その効果的な指導方法を実践できるインストラクターとなる

**具体的目標**

* 二次救命処置を医療従事者に普及させることの意義を説明できる。
* ACLS大阪のコンセンサス（コースの到達目標（必須指導項目），指導方法，用語等）を理解する。
* シミュレーターの操作ができる。
* 様々な教育技法を学び，実践できる。
* インストラクターとしてのマナーを身につける。
* 各コースの趣旨，到達目標に沿った指導ができる。
* 受講生に応じた指導ができる。
* ブース内での役割分担を考え，チーム一体となった指導ができる。
* インスト経験者が，初心者に対し，ノウハウを提供し，インストを育てていくことの意義を理解する。
* 自身の指導経験を踏まえ，各々目標を持ってコースに望む。
* インストラクターとしての目標を持ち，継続的に研鑽することの意義を理解する。

この資料はACLS大阪ワーキンググループが作成した指導者養成ワークショップ大項目に準拠した作成例（パターンＣ）です。

パターンＣの特徴

スキルステーションでの指導、デモンストレーション技法、シナリオステーションでの指導を、受講生グループ内でロールプレイを中心に学んでいただく位置づけにしています。

[**日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック**](https://www.yodosha.co.jp/medical/book/9784758117166/index.html)（日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会ICLS指導者ガイドブック編集委員会／編）も参考にして下さい。



（表をダブルクリックすると時間変更が可能です）

**【はじめに】**

指導者養成ワークショップの概要

指導者養成ワークショップは日本救急医学会ICLSコース指導者「養成」ワークショップ（ACLS大阪のインストラクターコースも同趣旨です）として参加者のみなさんと共に作り上げていくコースです。このコースから得られるものはそれぞれのインストラクター経験や立場によって異なると思います。参加者のみなさんには各自の目標を持ってコースに臨んでいただきたいと思います。

**【持参する物】**

筆記用具、コースガイド、受講生用配布資料、ログシート

**＊この資料と「ログシート」を印刷の上当日お持ちください！**

**【ワークショップのスタンス】**

**「教える」のではなく「気づいてもらう」**

このコースでは、参加者のインストラクターとしての成長を支援するため、コース内での討論等を通じて参加者（ファシリテーターも含め）が自ら何かに「気づく」ことを目標としています。「教える」というよりは、「気づいてもらう」という態度が基本です。

**「ファシリテーター」と「参加者」**

インストラクターが“教える”とついつい“受講生”は受け身の立場に置かれがちになるため、本ワークショップでは、「インストラクター」と「受講生」とは呼ばず、「ファシリテーター」と「参加者」と呼びます。

「ファシリテーター」：ファシリテートとは“促す”という意味で、“参加者の学び”を促す人です。一般的にも会議などにおけるまとめ役のことをいいます。考えを誘導するのではなく、あくまで参加者グループの討論を促し、「うまく考えを引きだす」ことを心がけます。

­主催者側から模範解答を提供するようなものではありません。

「参加者」：コース内で「インストラクター役」を演じたり、「受講生役」を演じたりします。

**「ワークショップ」とは？**

司会進行役（ファシリテーター）が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が作業を体験し、積極的に体を動かし、考え、討論をして頂きます。ファシリテーターは、あくまで司会進行役で、一方的に知識や技術を押しつけたりしません。

**【指導者養成ワークショップ参加資格】**

2回の二次救命処置コース受講経験があって、ICLSの活動の趣旨に賛同するもの。

※指導者養成ワークショップでは参加希望者の一般コースでのインストラクター経験数等を参考に、ファシリテーター、参加者の振り分けを行いますのでご了解ください。クレジットは参加者、ファシリテーターとも同じです。

**【ワークショップ内容】**

1グループ6名から8名程度の小グループでファシリテーターと共に小グループ討論を重ねる形でコースを進めていきます。

**1． オリエンテーション/目標設定**

参加者の自己紹介のあと指導者養成ワークショップの1日の流れの説明を簡単に示し、ワークショップ参加者、ファシリテーターのそれぞれの本日の目標を設定し、記録していただきます。最後の振り返りで、記録した目標についても振り返ってください。

**2． 成人教育・二次救命処置コースに関する講義**

成人教育技法の概説と二次救命処置を取り巻く環境などトピックについて話題を提供します。

**3． 基礎スキルステーション**

二次救命処置コースでインストラクターをするために必用となる基本的な技術、知識を身に付けることを目標とします。シミュレーション人形の操作法、指導の際に有用な技能（双方向コミュニケーション、フィードバックの仕方等）といった、インストラクターに必要な知識・技術を修得するための実習を行います。コース開催前後の物品管理の仕方も確認していただきます。参加者の中でもインストラクター経験の豊富な方は経験の少ない方を指導していただければと思います。

**4． ロールプレイステーション**

コース前半で習得したインストラクションのための基礎スキルを活用してロールプレイを行います。受講生には、①気道管理やモニタなどのスキルステーションでの指導、②デモシナリオを全員で考えてデモを実施するセッション、③シナリオシミュレーションでの指導など、インストラクター役、受講生役を交互に経験し、その体験を下に討論をすることでインストラクターとして一歩先に進む何かをつかむことを目標にしています。

**5． 振り返り**

個々人、各グループが一日を通じ気づいた点、発見したことを参加者全体で討論することでさらに深め、共有することを目指します。

**【WS 参加前の宿題】**

（当日最初のセッションで全員に発表いただきます）

 ①ACLS大阪のコンセンサスに必ず目を通してください

 ②各自の目標について具体的に記載してください(箇条書き)

**「 “理想とするインストラクション”とは、どのようなものですか？」**

 ③受講生のバックグラウンドについて話し合いましょう

下の表の中に箇条書きで、2、3 個程度記載してWS当日に持参してください！

|  |
| --- |
| ・ |
| ・ |
| ・ |

自分が、「こんなインストラクションができるようになりたい！」と思っていることや、他のインストラクターを見て、「ああ、こんなインストラクションができたらいいなあ！」と思っていることでも結構です。

**【基礎スキルステーション】**

1. **コースに関わる資器材管理、タスクの仕事、会場設営（30分）**

まず、会場の設営作業をしてみましょう。ICLS コースの、午後のシナリオステーションの状況を思い出してください。シミュレーターをどのように配置しましょうか？椅子は？机は？板書は？一見、適当に配置してあるようですが、いろいろなことを考えて、位置が決定されています。

【到達目標】 ・コース運営に必要な資器材を準備しタスクの仕事を実践する。

・資機材の管理（貸出方法も含め）、収納を実践できる。

【準備】

・人形型シミュレーター、資機材チェックリスト

【進め方】 1. チェックリストで確認しながら資器材を組み立てる。

2．人形型シミュレーターを立ち上げる。

3．ICLSモードにする。

4．人形型シミュレーターおよび操作パッドの正常作動を確認する。

5．具体的に心電図波形を出してみる。

6．タスクの重要性、物品貸し出し時のトラブルについて説明。

★ 確認ポイント

1. 参加者は『シナリオセッション』を行うセットアップを行って下さい。まず、人形型シミュレーター、オペレーターのディスク、受講生の座り位置などをブースリーダーがホワイトボードに図示しましょう。

2. 図には、入口、コンセントの位置、窓の位置、なども書いてください。

3. 人形型シミュレーターは参加者全員で準備してください。中身を確認し、必ず戻せるように記録をしてから開ける。破損があれば物品係（本コースではファシリテーター）に確認・報告してください。

**(2)人形型シミュレーター操作法（50分）**

【到達目標】 ・実習に使用する人形型シミュレーターの基本的操作方法を学ぶ

・シナリオを使用し、状況に応じた操作を実施できる。

【準備】

・人形型シミュレーターおよび操作法解説集・シナリオ集

【進め方】

1. 人形型シミュレーターを使用してオペレーターを体験してもらう。操作の解説にファシリテーターが一人つく。プレゼンター、「受講生役」はファシリテーターもしくはベテランの参加者が担当する。

2. 人形型シミュレーターを触ったことがない、あるいはあまり自信がない方はPCやパッドの操作してください。

3. 与えられたシナリオにそって人形型シミュレーターの操作を行って下さい。

★心停止の４つの波形を提示できる。

★心拍再開後の脈拍を適切に提示できる。

★ROSC後の状態を、発声（うめき声）を活用して表現できる。

★心拍の変動や血圧、呼吸数の調整ができる。

★気道閉塞をシミュレーターで表現できる。

★よくあるトラブルに対処できるようになる：電源の確認、フリーズした場合の再起動方法、除細動器のハム→電源をはずす等

シナリオ例

VFに電気ショックを行うと、暫くは心静止状態が続く。2分後のリズムチェックで体動と脈あり、心拍再開後にST上昇を認めPVCが頻発する。

ポイント

1. 通電後は、心静止もしくは幅広QRSなどの波形を出す。

② QRS波形の選択、PVCの追加ができる。

③ 呼吸、嘔吐、苦悶を表現できる。

④ VFに電気ショックを行うと暫くは心静止とする理由を討論する。

**（3）効果的指導法（参加型手法と双方向的手法）（25分）**

【到達目標】・ インタラクティブな指導を行うための基礎スキルとして「参加型手法」と「双方向的手法」を知り、経験する。

【準備】

・受講生の人数分のイス

・ストップウォッチもしくはタイマー

・二次救命処置関連物品：聴診器、酸素マスク、はさみ、喉頭鏡など

【進め方】

1．自己紹介

2．ステーションの目的

少人数実技中心のコースで、効果的に教えるための指導法を経験する

3．ロールプレイ

隣同士で２人組を作る。2人組の一方に準備した物品を一つずつ渡される。物品を渡された方がインストラクター役、もう一方が受講者役となって2分間で渡された物品の説明をする。

4．意見交換

5．ファシリテーターから1回目の解説

6．インストラクター役、受講者役を交代して、もう一度ロールプレイをする。

7．意見交換

8．2 回目の解説

9．もう一度インストラクター役、受講者役を交代してロールプレイする。

10．最後のまとめを行う。

11．質問を受け付ける。

時間配分例

導入；2分→ロールプレイ①；2分→感想・解説3分→ロールプレイ②；2分→感想・解説3分→ロールプレイ③；3分→感想・解説2分→→ロールプレイ④；3分→感想・解説2分最後のまとめ・質問；3分

**【ロールプレイステーション】**

**（1）ロールプレイステーション1　（60分）**

**スキルステーションでの指導技法　～少人数を対象にした指導技法～**

【到達目標】

・気道管理、モニタなどスキルステーションで、前半に習得した基礎スキルを有効に活用した指導を実践する。

・受講生役も体験し受講生の視点からも有効なインストラクションについて考える機会を持つ。

【準備】

・気道管理トレーナーおよびバッグバルブマスク、挿管機材一式

・人形型シミュレーターおよび除細動器

【進め方】

1. コースでの位置づけについて説明（3分）
2. 参加者は4人ずつの2つの子ブースに分け、それぞれのチームで1人のインストラクター役が3人の受講生役を指導するシミュレーションを行ってください。気道管理やモニタブースでの指導テーマをそれぞれ１つずつ選択します。テーマが決まったらどのように指導するか子ブース内で相談しましょう（15分）。
3. 最初のテーマについて、子ブースで実際に指導する（5分）。
4. 指導終了後に、子ブース内で気付いたことを発表し簡単にまとめる（5分）。
5. もうひとつのテーマについて別のインストラクター役が指導し③、④を繰り返す（10分）。
6. 子ブースで指導側からうまくいった点、伝えきれなかった点について気付いた点を振り返り、簡単にまとめる（15分）。
7. 最後に全員でスキルステーションでの指導法について気付いたことを箇条書きでまとめる（5分）。
8. まとめをログシートに記載する（4分）。

具体的なスキルステーションでの指導テーマ例

・ バッグバルブマスクの構造説明と使用方法について

・ 口咽頭エアウェイ、鼻咽頭エアウェイの使い方について

・ 気管挿管後の確認方法について

・ 電気ショックが必要な心停止の波形について

・ パドル誘導について

・ 安全な電気ショックの実施方法について

**（2）ロールプレイステーション2**

**「コースの目標」としてのデモンストレーション実習（40分）**

【到達目標】 ・受講生のニーズに応じて、コースの目標となる完璧なデモンストレーション（以下　デモ）を行えるようになる。

・シナリオブースでの役割を意識して、5分間でデモを完結させることができる。

【準備】・人形型シミュレーター、除細動器、バッグバルブマスク、挿管機材、ストップウォッチ、ホワイトボード

【進め方】

1. ブースの目的と進め方の説明（2分）
2. 参加者でデモを行う上で、『受講生』に見せたいポイントについて話し合いデモでの役割を決定する（5分）

③参加者でデモの練習をする（20分）。

④全員でデモを実施する（5分）。

リーダーによる「役割の振り分け」を口に出すことを忘れない。メンバーとのコミュニケーションをとりながら進行する。

⑤デモ終了後に、デモを実施して気付いたこと、うまくいった点、伝えきれなかった点について気付いた点を振り返り、簡単にまとめる（6分）。

⑥まとめをログシートに記載する（4分）。

**（3）ロールプレイステーション3**

**シナリオステーションでの指導技法～チームを対象にした指導技法～ブリーフィング・デブリーフィングを中心に（120分）**

【到達目標】

・シミュレーション学習におけるフィードバックの目的を理解する。

・フィードバックの種類を理解する。

・受講者の討論のファシリテーションが行える。

・チェックリストの使い方を理解し、効果的なフィードバックのために活用する。

・シナリオシミュレーション実習において、前半に習得した基礎スキルを有効に活用した指導を実践する。

･プレゼンター、オペレーター、記録係を実践できる。

・受講生のニーズにあったシミュレーションの設定を考える。

・シミュレーションの受講生役も体験することで、受講生の視点からも有効なインストラクションとは何かを考える機会を持つ。

・活動記録を活用し、デブリーフィングを行う。

・受講者の討論のファシリテーションが行える。

・板書・テキストなどの資源を利用したフィードバックが行える。

【準備】 ・シナリオ集

・フィードバック用のチェックリスト

・感想記入用メモ用紙

・筆記用具

・板書・テキストなど

【進め方】

* + 1. 目標と本日のコースでの位置づけ（2分）
		2. おおまかな進行方法；

参加者は3～4名の受講生役、3～4名のインストラクター役に分かれてシナリオを繰り返す。シナリオ毎に受講生役、インストラクター役を適宜交代する。ファシリテーターの一部は、受講生役（例：胸骨圧迫係など）を務める。

受講生役；リーダー役は毎回交代。

インストラクター役；プレゼンター、オペレーター、活動記録係

前半は受講生を混乱させないスムーズな導入、プレゼンターとしての振舞い

後半は受講生のニーズを考えたシナリオ設定とブリーフィング、デブリーフィング中にファシリテーターとして受講生の振り返りを援助する方法を意識して実際にシナリオ運営の対応をしてみましょう。

それぞれ以下の時間配分を目安とする。

4分 インストラクター側；指導ポイント／シナリオの相談、

受講側；キャラクターあわせ。次のシナリオへの準備

2分　受講生ブリーフィング

4分 シナリオシミュレーション

3分 受講生デブリーフィング

5分 討論

討論のポイント例

① 状況設定は適切に伝わっていたか？

②　受講生を混乱することなくシミュレーションに導くことができたか？

1. 受講生のレベルに応じて臨機応変にシナリオを変更できたか？
2. シナリオのポイントが受講生に伝わっていたか。
3. 非言語的な表現、インタラクティブな手法を活用したフィードバックを活用できたか。
4. 活動記録を利用してうまくデブリーフィングが行えたか。
5. 討論のファシリテートが円滑にできたか。
6. 受講生の立場からどんなファシリテートであれば議論が進みやすいか。
7. 板書・テキストなどの資源をうまくフィードバックに利用できたか？

オペレーターとプレゼンターは息の合ったシミュレーションを展開できたか？

受講生のデブリーフィング技能が上がれば、デブリーフィング支援者の役割は、司会→適宜介入→見守りへと変化してゆきます。



ブリーフィング： 学習や患者治療経験の前に行われる手順確認

デブリーフィング： 学習や患者治療経験の後の振り返り

デブリーフィングの一例としてGAS method（手順に従って、効率的に）

・ **情報を集める（Gather information）**

 客観的・具体的情報を集める

 シナリオで何が起こったか

・ **情報を分析する（Analysis of information）**

 上手くできたことは、なぜうまくいったのか

 改善すべき点は、どうしたら改善できるか

・ **次に活かすまとめ（Summary for future practice）**

 同じような状況で、得意な点をどう活かすか

 同じような状況で、改善すべき点をどう変えるか

**【資器材の片付け→各ブースで振り返り】（30分）**

人形型シミュレーターを片付けが終われば、ファシリテーターと共に1日を振り返りましょう。

宿題の「**“理想とするインストラクション”**とは」に対して、参考になった点がありましたか？今日のWSを自己採点すると何点でしたか？

ファシリテーター用資料

【指導者養成ワークショップの目標】参加者用配布資料を参照ください

【指導者養成ワークショップ参加資格】参加者用配布資料を参照ください

それぞれのセッションでファシリテーターはホワイトボードの板書を活用して参加者にセッションの目的などを確実に伝えてください。

各セッション終了時点で**2分程度ログシートを記載する時間を確保して記入後に休憩**をとってください。

**1． オリエンテーション（15分）**各自の目標設定をしましょう

**2． 成人教育・二次救命処置コースに関する講義（25分）**

**3． 基礎スキルステーション**

**4． ロールプレイステーション**

**5． 振り返り**

**基礎スキルステーション**

1. **コースに関わる資器材管理、タスクの仕事、会場設営（30分）**

『受講生が学習に集中しやすい環境となるように』という視点でセッティングされるよう参加者の方々に促してください。

★ ファシリテーターから、配置についてのフィードバックのポイント

­ コンセントはどこだったか？

延長コードなど足に引っかかるようなことになると危険！

­ シミュレーション中、オペレーターから受講生全員が見えるか？

­ 人形型シミュレーターの頭はどっち向け？

­ 板書と窓の関係は？ 逆光になって見づらくないか？など

**(2)人形型シミュレーター操作法（50分）**

会場設営が速やかに完了すれば、そのままシミュレーターの操作にはいってください。参加者の経験に応じて、人形型シミュレーター操作を体験できるように割り振りのアドバイスをお願いします。受講生配布資料のシナリオ例以外のアドリブ提示もOKですので、実際に人形型シミュレーター操作が可能な時間配分をお願いします。休憩前にはファシリテーターを含め全員でログシートの記入をお願いします。

**（3）効果的指導法（参加型手法と双方向的手法）（25分）**

準備物品　受講生の人数分のイス

・ストップウォッチもしくはタイマー

・１グループの人数÷２以上の数の手に取れる物：12 人の場合は6 個以上（例：聴診器、酸素マスク、はさみ、テープ、喉頭鏡、輸液ボトル、ジュース、チョコレート等ICLSと全く関係のない物も準備しておくのがポイント）

【進め方】

・イスは軽く円弧を描くか、直線状に、１列に並べておく

・受講生は、できるだけ知り合いが隣同士にならないように座ってもらう

・ファシリテーターは正面に立つ。

・ホワイトボードを準備

・ロールプレイ→解説、ロールプレイ→解説、を繰り返す

・受講生に配るものはICLSに関連するものとしないものを交互にしておくとスムーズ。

1．自己紹介をする。

2．ステーションの目的を伝える。

「少人数実技中心のコースで、効果的に教えるための指導法を経験していただきます」（この時点では参加型、双方向といった言葉は使わない）

3．説明なしに、まずロールプレイをしてもらう。

隣同士で2人組を作る。2人組の一方に準備した物品を一つずつ渡していく。物品を渡された方がインストラクター、もう一方が受講者役となってロールプレイし、2分間で渡された物品の説明をしてもらう。

「まず、ロールプレイをしていただきます。2人組のうち、いま、物を手渡された人がインストラクター役です。もう一人の人が受講者役です。特に説明はしませんので、今から2分間さしあげます。渡されたものを説明してあげて下さい。」

4．教えてみての感想をインストラクター役の数人から、教えられてみての感想を受講者役の数人から聴いてみる。

「さて、教えてみていかがでしたか？何か気を使ったことはありますか？」

ファシリテーターは意見をホワイトボードに板書していく。

5．1回目の解説。

機材を触らせる工夫をしたか？自己紹介をしたか？相手のバックグラウンドを聴いた上で戦略をたてたか？参加型、双方向性が重要であることを加える。

6．インストラクター役、受講者役を交代して、もう一度ロールプレイをする。このとき、物品を交換することがポイント。1回はICLS に関連した物品を用いる。

「では、今度は攻守交代してロールプレイしましょう。同じ物では面白くないので、時計回りに物品を移動させて下さい。それでは、また2分間さしあげます。」

7．教えてみての感想をインストラクター役の数人から、教えられてみての感想を受講者役の数人から聴いてみる。攻守交代しての感想を聴くとよい。

「さあ、今度は教える側に回ってみて、どうでしたか？」など

8．2回目の解説をいれる。

9．もう一度インストラクター役、受講者役を交代してロールプレイする。

同様に物品を交換する。ペアを変わるのも手。最後は二次救命処置に関連しない物品を用いていたロールプレイを行う。

10．最後のまとめを行う。

「ここでは、少人数実習中心のコースでの指導法として、参加型の指導と双方向的なアプローチを経験していただきました。今日はいきなり物を渡されて、教えろ、と言われて困ったのではないかと思います。実際のコースでは事前に指導内容も明示されているので、事前の準備が大切だ、ということも合わせて経験していただけたのではないでしょうか。」

11．質問を受け付ける。

＜ロールプレイ中の観察ポイント＞

・自己紹介をしているか

・向き合っているか（イスの向きを変えるとなおよい）

・物を受講生に触らせながら指導しているか

・指導開始から物を受講生に触らせるまでどれくらいかかっているか

・受講生の背景と基礎知識を把握しながら指導しているか

・受講生の理解度を確認しながら指導しているか

＜感想を聴くときのポイント＞

・渡された物についてではなく、教え方についての感想であると強調

・上記ポイントをうまく盛り込んだ受講生には、どこに気を使ったか尋ねる

**（1）ロールプレイステーション1　（60分）**

**スキルステーションでの指導技法　～少人数を対象にした指導技法～**

小ブース２つに分かれます。ファシリテーターも2班に分かれます。

参加者の小ブースから1名ずつ進行役を参加者で決めていただき、テーマを決め（あらかじめ参加者にはいくつかのテーマが提示されています）、指導のディスカッションをしていただきます。発表者と進行役が同じ人である必要はありません。ファシリテーターは小ブース内で進行がスムーズにいくように時間管理を行い、議論を上手に誘導してあげてください。

導入　3分

準備、相談　15分

↓指導実技　5分

↓気付いたことを発表、簡単にまとめ　5分

↓指導実技5分

↓気付いたことを発表、簡単にまとめ　5分

子ブースでディスカッション　10分

グループ全体でディスカッションの結果発表　8分

まとめ　ログシート記入　4分

**（2）ロールプレイステーション2**

**「コースの目標」としてのデモンストレーション実習（40分）**

参加者8名で役割を決めていただきます。

デモ参加6名、1名は司会、1名はデモのビデオ撮影（振り返りに使用）

シナリオは電気ショックが必要なデモを完璧に演じることが目標です。

“インスト”として受講生になにを示すか！を議論していただき、

ファシリテーターは参加者の議論を見守り、時間管理を行います。

参加者から質問があれば、ヒントをだして議論を誘導してあげてください。

**（3）ロールプレイステーション3**

**シナリオステーションでの指導技法～チームを対象にした指導技法～ブリーフィング・デブリーフィングを中心に（120分）**

参加者8名の中からインスト役3名、受講生役5名を順次交代しながら、シナリオブースの実際（シナリオは電気ショックが必要なものに統一します）

ファシリテーターは意見を板書して取りまとめてゆきます

実際にブリーフィング、ロールプレイ、デブリーフィングを運営していただき、それぞれのシナリオ毎に、基本的な運営スタイル（プレゼンター、オペレーター、記録者補助）について“インスト”側、“受講生”側からの意見を求めて、うまくできた点、改善すべき点などを具体的にファシリテーターが板書してゆきます。

**基本的テーマ１　フィードバック技法**

・その場で正確な知識・手技を身につける。

・学び続ける気持ちにさせる

フィードバックの種類

ポジティブ

ネガティブ

コンストラクティブ（建設的）

フィードバックの方法

双方向で（質問を受ける。やりとりしながら。など）

具体的に（漠然としたフィードバックはできるだけ避ける）

**基本的テーマ２　ブリーフィング、デブリーフィングを活発に行うための工夫**

参加者がブリーフィング、デブリーフィングを行う際、議論を活発にするための工夫について議論いただきます。

受講生の椅子の並べ方、ファシリテーターの位置取り、チェッカーからのFBを活用すべきか？など。

参加者に具体的なテーマを提示することで、自由に議論を進めてください。

**資器材の片付け→各ブースで振り返り（30分）**

機材収納時には、機材の写真に従って各部品を確認しながらきちんと収納してゆくのを確認してください。

片付けが終われば、1日を振り返りましょう。

最初に記載したホワイトボードの内容を参考に振り返ってください。

ログシートはファシリテーターも参加者と一緒に記載してください。

最後に集合写真をとって終了予定です。

**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンD（作成：向井友一郎【委員】）

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**【ACLS大阪　インストラクターコースの目標】**

（2003年2月　インストラクターコースを考える子WG資料を一部改編）

**一般目標**

　　二次救命処置の内容を熟知し，その効果的な指導方法を実践できるインストラクターとなる

**具体的目標**

* 二次救命処置を医療従事者に普及させることの意義を説明できる。
* ACLS大阪のコンセンサス（コースの到達目標（必須指導項目），指導方法，用語等）を理解する。
* シミュレーターの操作ができる。
* 様々な教育技法を学び，実践できる。
* インストラクターとしてのマナーを身につける。
* 各コースの趣旨，到達目標に沿った指導ができる。
* 受講生に応じた指導ができる。
* ブース内での役割分担を考え，チーム一体となった指導ができる。
* インスト経験者が，初心者に対し，ノウハウを提供し，インストを育てていくことの意義を理解する。
* 自身の指導経験を踏まえ，各々目標を持ってコースに望む。
* インストラクターとしての目標を持ち，継続的に研鑽することの意義を理解する。

本資料は大阪府医師会二次救命処置インストコース資料（原案は日本救急医学会ICLSコース企画運営特別委員（当時）山岡先生の「WS のコンセンサスの概略Ver.3」）、耳原病院　緒方先生の資料、近畿大学　太田先生の資料、堀川先生の資料（特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会　AHA BLS/ACLS）をもとに構成しました。日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック（日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会ICLS指導者ガイドブック編集委員会編）等も参考にしてください。

[参加者用資料の例](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料の例](#ファシリテーター用資料の例) 9

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) 9

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 10

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 11

[AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作) 5 [AEDトレーナーの操作](#AEDトレーナーの操作Fa) 11

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 5 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 11

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 5 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 6 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 13

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 6 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 14

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 7 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 14



参加者用資料

[参加者用資料](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料](#ファシリテーター用資料の例) ７

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) ７

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 9

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 9

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 4 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 10

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 4 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 10

成人教育、インストラクターの心得　 5 成人教育、インストラクターの心得 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 5 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 12

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 5 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 13

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 5 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 13

＜はじめに＞

参加者の皆様、こんにちは

大阪府医師会二次救命処置インストラクターコースへのご参加お申し込みをありがとうございます。今回の指導者養成ワークショップは、インストラクターを目指すものが集い、話し合い、教え方の小手先のテクニックを学ぶのではなく、受講生の皆さんが効果的に学ぶためにはどうしたらよいかを参加者皆で考える会です。

　「ワークショップ」とは、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役が、参加者に対して自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するというものです。従って、皆さん方に、積極的に体を動かして頂き、考えて頂き、ディスカッションをして頂きます。WS のファシリテーターは、あくまで司会進行役です。一方的に、知識や技術を押しつけたりしません。指導者といっても、みなさんより、少しだけ早く、インストラクターという世界に飛び込んだ先輩達です。みなさんたちと一緒に、悩んだり、考えたり、楽しんだりしたいと思っています。ファシリテータは、参加者のディスカッションが詰まったときにヒントを出します。あるいは、間違いがあった時にヒントを出したり、指摘したりします。

この資料では、WS の一日をどう過ごすのか、ご紹介しますので参考にしてください。

＜持参するもの＞

筆記用具、コースガイド、配布資料、ログシート

**WS 参加までに、宿題があります。以下をお読みください。**

＜宿題＞

WS においで頂くまでに、三つの宿題をこなしてください。絶対、忘れないようにお願いします

**宿題1**： まず、「ACLS大阪コンセンサス」を読破して下さい。

「ACLS大阪コンセンサス」はこちら→　<https://www.osaka.med.or.jp/img/doctor/acls_consensus_2015.pdf>

その上で、判りにくいことはなかったか、いくつか列挙して下さい。

箇条書き、２，３個で結構です。[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。

**宿題2**： 「みなさまが考える、「良いインストラクション」とは、どのようなものですか？」

具体的な表現でなくても良いですよ。自分が、「こんなインストラクションができるようになりたい！」と思っていることや、他のインストラクターを見て、「ああ、こんなインストラクションができたらいいなあ！」と思っていること、あるいは、まだ、インストラクションの経験がない方であれば、「コースで指導してもらった、あのインストラクターの、こんな指導が頭に残っている！」ということでも良いです。そんなことを、[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。箇条書きで、2,3 個程度で。要領よくまとめることも練習です！

**宿題3**： 「ICLS コースに参加する受講生のバックグラウンドは？」

みなさまが、これから指導に関わるICLS コースの受講生には、どのようなバックグラウンドがあるのでしょう？バックグラウンド（背景）という表現は、漠然としていてわかりづらいですね。例えば、職種、年齢、経験年数、心肺蘇生に関わる頻度といったことから、コースにどのようなことを求めているのか？どのような環境で学びたいと思っているのか？といったことまで、様々なバックグラウンドが想像できると思います。一般的な話でも良いですし、最近のコースではこういう受講生が多いよね？ということでもかまいません。

これも、[ログシート](https://drive.google.com/file/d/1M-wHItlGvjnEF4B1p7GE_gOMU5TJgA8A/view?usp=sharing)1ページ目の□の中にまとめてみましょう。箇条書きで、2,3 個程度で。要領よくまとめることも練習です！

**＜宿題の発表＞20分間**

当日、まずは、各自でやってこられた宿題について、参加者間でディスカッションして下さい。時間がかなり限られていますので、1と2または1と3についてディスカッションして頂き、時間管理もしっかりと行ってみて下さい。

**＜機材準備、設営、タスクの役割＞40分間**

まず、会場の設営作業をしてみましょう。午後のシナリオステーション会場を設営してもらいます。

シュミレーター、椅子、白板、モニターをどのように配置しましょう？何もないように思われる配置にも実は理由があります。

　また使う資機材の管理、作動確認等も必要です。

　資機材の出し入れの際には必ず部品の有無や、破損、汚染等の確認が必要です。

　普段はタスクという役割の者が準備していますが、当然インストラクターになるためにはタスクもできないといけません。認定インストになるためには、少なくとも1回はタスク参加をしておきましょう。

**＜人形型シミュレーターの操作＞50分間**

　会場設営後、実際に使用する人形型シミュレーターの使い方についてについて勉強します。

　体験すべき順序に項目を並べます（10番以降は時間がなければ割愛可）

1. 起動とシャットダウンのしかた
2. シナリオの開始方法とタイミング、種々のリズムの変更方法
3. 気道閉塞のしかた、声の出し方
4. シナリオ終了とログの保存、閲覧
5. 胸骨圧迫や換気のデータの読み方、フィードバックのポイント
6. 下肢と骨盤の分離と接続
7. よくあるトラブルに対するトラブルシューティング

予習は必ずしも必須ではありませんが、「ちょっと勉強しておかないと不安」という方は、[人形型シミュレータークイックマニュアル](https://drive.google.com/file/d/1nsIhLpPkiJHyhXY8kdDj7GnRE2iAZfhl/view?usp=sharing)、[ミニマニュアル](https://drive.google.com/file/d/15ggzAG2I24-bCzZVPAFfFiE4ZJCME-Wh/view?usp=sharing)をお読みになることをお勧めします。

**＜効果的な指導法＞30分間**

ここでは、ちょっとしたゲームを通して、効果的な指導法やフィードバックの方法を考えてみます。

みなさんは、「成人敎育」とか、「インタラクティブ」とか、「ポジティブフィードバック」といった言葉を聞いたことがありますか？それぞれ、一体、どのようなものなのか、はっきりイメージできませんよね。

理屈はちょっと置いておいて、実技を通して、受講生によりよい学びをして頂くための方法について考えてみましょう。このブースで気づいたことを、この後のブースで活用していきます。

あまり硬いことを考えずに、楽しんで頂きたいと思います。

**＜成人敎育、インストラクターの心得＞20分間**

　効果的な指導方法で目から鱗なこともあったでしょうか？ここでは午後からの指導方法の実際を考えていく上でのヒントとなる成人教育の考え方をお話しします。

**＜スキルステーションでの指導＞30分間×2**

 テーマごとにインスト役と受講者役を交代していきましょう。一つのテーマを行うたびに、「教えてどうだった？」「教わってどうだった？」と簡単にディスカッションして下さい。一つのテーマを約15分間（指導10分・ディスカッション5分）で時間管理して下さい。テーマは以下を例として下さい。

【モニターでのテーマ】30分間

素早い電気ショック

安全な電気ショック

【エアウェイでのテーマ】30分間

バッグ・マスク換気（片手法、両手法）

気管挿管後の確認

**＜デモンストレーションの実践＞30分間**

* コースでスキルの時間が終わり、いよいよシナリオの時間となります。ブースリーダーがシナリオの進め方を解説します。そのあと、イメージを持って貰うためにデモを行うことがあります。動画で見せるコースもありますが、生デモができるようになることは重要です。
* デモを計画・実行することで、デモの意義と伝えることの難しさ，伝え方について学んでもらいます。インストのデモの間違いはそのまま受講者に伝わりますので、責任重大です。
* デモができるということは伝えることが理解できているということの確認になりますので、デモを行って見ることは重要です。
* 分担決定、デモの練習、デモの実施、ディスカッションを1クールとして下さい。最低1クール、できれば、役割交代して、合計2クール実施して下さい。
* 時間管理もできるようにしましょう。
* 分担決定はインスト役と受講者役（見る役）に別れて下さい。ファシリテータやコーディネータを使っても構いません。デモ終了後のディスカッションではデモ側はまず、デモしてみてどうだったか？上手くいった点は？改良点は？受講者役はテーマ・ポイントは上手く伝わったか？良かった点は？改良点は？について議論して下さい。

**＜シナリオステーションでの指導法＞120分間**

シナリオステーションのときの、インストラクターの役割（係）にはどのようなものがあるのでしょうか？神の声（想定を付与）を出したり、シムを操作したり、ブリーフィング・デブリーフィングの司会をしたり、時には間違いや抜けをズバリと指摘したり・・・。コースに参加すると、「新人さんでも、一度は、プレゼンをしてみましょう」なんて言われますが、頭が真っ白になって何もできなかったという経験があるのではないでしょうか？

　ブリーフィング⇨学習や患者治療経験の前に行われる手順確認

　デブリーフィング⇨学習や患者治療経験の後の振り返り

ここでは、みなさまに、インスト役を体験して頂きます。インスト役2名（プレゼン係1名、記録者の補助係1名）、受講者役6名（リーダー役1名、記録役1名、その他4名は適宜）にわかれて、一つのシナリオごとに役割交代していって下さい。一つのシナリオが終われば、普通通りデブリを行います。通常コースではここで次の目標を掲げ、作戦会議（ブリーフィング）と流れて行きますが、WSでは常に「教えてどうだった？」「教えられてどうだった？」というディスカッションを加えて下さい。

インストが喋りすぎるのもよくないですが、介入ができないのもよくありません。例えば、ブリーフォングやデブリーフィングで全く意見が出ずに、毎回「うまくできなかった」「うまくコミニュケーションできなかった」を繰り返していて全く、進歩できないケース。受講者は二次救命処置のスキルがかなりできていないのに、デブリーフィングでその議論が出ずに「シャンシャン」で終わっているケースなどがあります。

ディスカッションのポイント例

* 状況設定は適切に伝わっていたか？
* 受講生を混乱することなくシミュレーションに導くことができたか？
* 受講生のレベルに応じて臨機応変にシナリオを変更できたか？
* シナリオのポイントが受講生に伝わっていたか。
* フィードバックは他の受講生にも伝わっていたか。
* コンストラクティブなフィードバックができていたか。
* 具体的なフィードバックを行うことができたか。
* 活動記録等を利用して上手くでブリーフィングが行えたか？
* 討論のファシリテートが円滑に行えたか？
* 非言語的な表現、インタラクティブな手法を活用したフィードバックを活用できたか。
* 受講生をしてみてどうだったか。
* 受講生のニーズにあったシナリオ設定をおこなうことができたか？
* グループ全体でのシナリオの展開，リーダー役の回し方は適切であったか？
* 板書、テキストなどの資源をうまくフィードバックに利用できたか？

デブリーフィングがうまく機能していればでブリーフィング支援者（すなわちファシリテーターであり、インストラクター）の役割は司会⇨適宜介入⇨見守りへと変化してゆきます。

**＜各ブースでの振り返り＞10分間**

１日のコースで自分なりに目標は達成できましたか？

**＜機材の終了後点検、清拭、返却＞30分間**

借用者がもとの通りに返却する、会場を元通りに復元する。

返却の際に欠品がないか、破損がないか、正しく収納されているか等の確認は重要な仕事です。

資機材を全て持っている施設は限られており、多くの資機材が借用品です。

自施設が貸し出したものに破損や汚染があるとどうでしょうか？

元より綺麗にして終えることができればこれに勝るものはありません。

**＜その他＞**

* WSや指導方法については、以下の書籍が参考書となります（購入・持参は必須でありません）。
* [日本救急医学会ICLS指導者ガイドブック](https://www.amazon.co.jp/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%80%85%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF-%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9%E4%BC%81%E7%94%BB%E9%81%8B%E5%96%B6%E5%A7%94%E5%93%A1/dp/4758117160/ref%3Dsr_1_1?ie=UTF8&qid=1545653609&sr=8-1&keywords=%E3%83%BB%09%E6%97%A5%E6%9C%AC%E6%95%91%E6%80%A5%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E4%BC%9AICLS%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%80%85%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF)
* 学研メディカル秀潤社「[改訂第3版BLS/ALS：写真と動画でわかる一次/二次救命処置](https://goo.gl/tCYRx9)」

BLS：　116-120、121-124、182-187、188-189ページ

ALS：　14-17、59-61ページ

では、コースでお会いできることを楽しみにしております。

ファシリテーター用資料

[参加者用資料](#参加者用資料の例) 3 [ファシリテーター用資料](#ファシリテーター用資料の例) ７

[はじめに](#はじめに) 3 [はじめに](#はじめにFa) ７

[宿題](#宿題) 4 [宿題](#宿題の発表Fa) 9

[機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割) 4 [機材準備、設営、タスクの役割](#機材準備、設営、タスクの役割Fa) 9

[人形型シミュレーターの操作](#レサシアンシミュレーターシムパッド版の操作) 4 [人形型シミュレーターの操作](#人形型シミュレーターの操作Fa) 10

[効果的な指導法](#効果的な指導法) 4 [効果的な指導法](#効果的な指導法Fa) 10

成人教育、インストラクターの心得 5 成人教育、インストラクターの心得 12

[スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導) 5 [スキルステーションでの指導](#スキルステーションでの指導Fa) 12

[デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践) 5 [デモンストレーションの実践](#デモンストレーションの実践Fa) 13

[シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法) 5 [シナリオステーションでの指導法](#シナリオステーションでの指導法Fa) 13

＜はじめに＞

大阪府医師会二次救命処置インストコース へのご参加を頂き、ありがとうございます。指導者養成を目的としたコースやワークショップ（以下、WS） では、例えば、「positive feedback」などの数々の用語を提示し、さらに、「指導法かくあるべし」という解説に終始してしまうことが、ままあります。このWS では、指導者養成のための取り組みにおいて、「指導法かくあるべし」と押しつけるのではなく、指導者として成長していく中でヒントとなることに「気づく」、そして、現場(コースなど)に「還元」することができることを目標としてきました。WS の中心をなすのは、もちろん、参加者の皆様です。我々は、ファシリテーターとして、参加者が考え、気づくのを手助けすることになります。「ファシリテーター」という言葉を聞いたことがない方もいらっしゃると思います。参加者の皆様へ配布した資料に、以下の記載があります。

「ワークショップ」とは、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役の人が、参加者が自発的に作業をする環境を整え、参加者全員が体験するというものです。従って、皆さん方に、積極的に体を動かして頂き、考えて頂き、ディスカッションをして頂きます。WS の指導者ファシリテーターは、あくまで司会進行役です。一方的に、知識や技術を押しつけたりしません。指導者といっても、みなさんより、少しだけ早く、インストラクターという世界に飛び込んだ先輩達です。みなさんたちと一緒に、悩んだり、考えたり、楽しんだりしたいと思っています。間違いをおそれず、いろんなことをやって、そして、いろんなことを発言して、楽しんでください。二次救命処置コースと一緒ですね。

イメージできますでしょうか？WS には、「こうあらねばならない、こう伝えなければならない」という細々とした目標は不要です。参加者の皆様と行動をともにし、彼らのディスカッションに耳をかたむけ、ときに、参加者が「あっ！」というような、ヒントを提示する。そして、一日が終わる頃には、参加者によい気づきと、学びが生まれており、彼らの指導に変化が加えられる・・・。こういう指導を、我々は、「○○○○○○○○」な指導。と呼ぶのでしたね。

＜この資料の位置づけ＞

* この資料を読まれる前に、まず、参加者用資料をお読みください。この資料「ファシリテーターのみなさまへ」は参加者さんにはお渡ししておりません。

＜ファシリテーターとは？はじめてWS に参加される方へのアドバイス＞

* ファシリテーターとは、参加者の皆様が学ぶ環境を整える役割です。具体的には、会場をsetting することにはじまり、ディスカッションのテーマを提示したり、よりよいディスカッションが行われための工夫をしたりします。司会進行役ととらえられることもありますが、皆様なイメージするところの「司会」は、参加者の中から選出して、任せることもできます。
* 一般的な役割は上記の通りなのですが、ある程度、ファシリテーターが、流れや結論をコントロールする必要に迫られることもあります。例えば、意見が全く出ないとき、議論が停滞したとき、結論があらぬ方向へ流れそうなとき・・・とくに、議論が停滞し、参加者が、上手な結論を見いだせないときに、キラーパスのような鋭い一言を入れてあげると、参加者が「あっ！！」という反応をして、一気に雰囲気が良くなり、議論が進みはじめることがあります。
* とくにご活用いただきたいのは、ホワイトボードです。この、真っ白のスペースが有効に活用されたとき、参加者に、大きな気づき、学びを与えることができます。ディスカッションの中で出た意見は、そのまま聞き流せば、永遠に失われてしまいますが、それをホワイトボードに書き留め、上手に整理(organize)し、よりよいまとめへの誘導の手段として利用できれば最高です。
* ファシリテーターであることを意識するのは大切ですが、これは、必ずしも「こちらから意見を述べてはいけない」ということではありません。上記のように、参加者に積極的に関わりながら、上手に調整を行ってください。「教えてもらうんだ」！という考えでやってきた参加者に、ときには、回答を示して上げることも必要でしょう。これら、様々な関わりを持って、「調整(facilitate)」と表現します。ブースメンバーには、ベテランの方もおられます。ベテランの方法やブースの雰囲気を見ながら、積極的に関わってみてください。そして、楽しんでいただきたいと思います。
* 平素のICLSでもインストラクションからファシリテーションに変わってきています。インストやファシリテーターはインストラクションよりもファシリテーションに心がける方向になってきました。しかし、全然できていないのに、受講者や参加者の議論の中から問題として抽出できていなかったり、問題としてあげることはできても、解決に繋げることができないまま流れていって1日が終わるといったケースも見受けられます。スキルセッションの部分ではファシリテーションよりもインストラクションが重要になっても構いませんし、シナリオの時間になっても、コアスキルができていない時は流れを止めてでも、指摘をして、「もう一度やってみましょう」と判断をしないといけないこともあります。



* 上図にまとめをログシートに書き込むとありますが、ホワイトボードに書いたものを写真撮影しても結構です。参加者の議論からできあがって文章に残されたものをプロダクトと呼びます。インストコースにはプロダクトはありませんが、WSではプロダクトは必須です。参加者とファシリでよいプロダクトを産んで下さい。

**＜宿題の発表＞20分間**

まずは、各自でやってこられた[宿題](#宿題)について、参加者でディスカッションして頂きます。ベテランインストという方でも「コースごとのコンセンサスは読んでいるけれども、ACLS大阪のコンセンサスを読んでいない」という人が見受けられます。ACLS大阪のコンセンサスを熟読して頂くために、宿題の1を必須としました。ここでは、与えられた宿題をきちんと行うこと、時間管理もしっかりと行いながら、みんなで話し合うこと、を目的としています。

**＜**[**機材準備、設営、タスクの役割**](#機材準備、設営、タスクの役割Fa)**＞40 分間**

* 開始前に、必ず、シムの収納状況の確認、動作確認をしておいてください。決まった場所に納められているでしょうか？不足している部品はないでしょうか？動作するでしょうか？
* このパートは、WSのスキルステーションといってもよいでしょう。参加者にとっては、「指導してもらう」、ファシリテーターにとっては、「指導する」という要素があります。
* 会場設営では、できれば、参加者からリーダー役を出していただき、配置の決定、椅子、机の配置のシミュレーションをやっていただきます。このリーダー役の方が大変有能な方であると、上手に役割分担を行い、効率よく作業が進むため、参加者によっては「あれ？私、シムの出し方を見てなかった」という状況になってしまうこともあります。そこで、机、椅子を配置した後、リーダー役の方に、「ここまでで結構です。お疲れ様でした。」とお伝えし、その後は、ファシリテーターが主導し、参加者全員で、シムをセットアップする作業を進めていってください。
* WSを通じて、我々が伝えたい「双方向性」。これを意識して指導に当たってください。ファシリテーターがしゃべり続けて、参加者が突っ立っているということはないでしょうか？参加者がみんな、身を乗り出してシムやPCを見つめ、積極的に手を出しているでしょうか？
* 会場設営で、注意すべきことは？こちらから、一方的に説明するのでなく、受講者のみなさまに気づいていただいてください。以下の考察ポイントを参考に参加者に議論して貰うようしむけましょう。

【レイアウト】

* 受講者の動線、インストラクターの動線
* 出入口、窓、電源（コンセト）の位置と関係（窓に向かっての喉頭展開は難しいです）
* 電気配線（ひっかけたりしませんか？かといって質の悪い養生テープで貼ると、糊でべちゃべちゃになります。貼ればいいってもんじゃあありません）
* 荷物置き場や、受講者がチョット座る配慮はできていますか？
* 除細動器の位置（どのように置くのがやりやすいですか？左からアプローチですよね）
* 最後に現状復帰するための工夫

【貸出物品の取り扱い】

* 物品に不備・足があった場合の工夫
* チェックリスト
* 写真保存など
* 後片付け現状復帰のため工夫

**＜人形型シミュレーターの操作＞　合計50分間**

* 人形型シミュレーターの基本操作を実習してもらいます。
* 参加者資料に書いてある項目以外に、以下も説明して下さい。

シムを借りてきたら、念のため一晩体幹内のバッテリーに充電しておくこと

パッド、本体のバッテリー残量の見方

シャットダウンのしかた

**＜効果的な指導法＞30分間**

* ステーションの目的：少人数実技中心のコースで、効果的に教えるための指導法を経験する。
* 二人一組となり、指導者役、受講者役にわかれて、あるテーマについて指導をおこなうというロールプレイを行います。
* 欠席者がおり、二人組ができない場合には、ファシリテーターが加わるなどの工夫が必要です。
* 物品を渡された方がインストラクター役、もう一方が受講者役となってロールプレイし、2分間で渡された物品の説明をする。受講者役の方は、受講者を演じながら、ロールプレイ終了後に、「指導はどうだったか」をフィードバックする役割を負います。
* 実技を始める前に、ルールについて、しっかりと説明を行い、納得していただいてください。これは、WS のどのパートにも共通する注意事項です。ロールプレイの方法について、あるいは、どのような役割を担当するのかなどについて、十分な説明が行われない状態でスタートすると、参加者の皆さんに混乱が生じたり、ロールプレイ後のディスカッションにおいて、良い結果を得ることができません。
* 受講者役の方に、「指導者役の指導方法についてのフィードバックをお願いします」と、明確に示すのがコツです。
* 進行と時間配分の例

①　　導入・準備（5 分）

2名ずつペアー（できればベテランと初心者）で、向かい合って座ってもらうこの時点では参加型、双方向といった言葉は使わない。

②　プレゼンテーション　指導・説明（2分間）

1 組に 1 品ずつ文房具やお菓子～ICLS に使用する道具を渡し、相手に伝わるように

③　振り返り・感想（1 分間適宜短縮可）

④　全体で順番に感想（7分間）

説明をした側 → 説明を受けた側

※説明を受けた側に「どう説明してもらったらより伝わったか？」を挙げてもらう 説明をした側に「説明してみてどうだったか？」

→ ホワイトボードに出た意見を板書して、最後にまとめる。

⑤　説明する側とされる側が交代

道具も回す。前回の反省を踏まえて、模擬指導→振り返りを実施

* まとめ

＜観察ポイント＞

* 自己紹介をしているか
* 適度な距離感か（イスの向きや並びなどを工夫しているか）
* 物を受講者に触らせながら指導しているか
* 指導を始めてから物を受講者に触らせるまでどれくらいかかっているか
* 受講者の背景と基礎知識を把握しながら指導しているか
* 受講者の理解度を確認しながら指導しているか

＜考察ポイント＞

* コミュニケーションのための雰囲気作りはどうだったか？

自己紹介 相手を名前で呼ぶと親近感

横を向いたままではなく、向き合うようにする。(目線や距離感を上手く使う)

スペースを自由に使うこと

非言語的・準言語的メッセージを効果的に使う

表情、身振り手振り、うなづき、声のトーン、話し方

* 到達目標の設定はどうだったか？

何を最低限伝えたいかを設定する

到達目標は受講者のレベルにあったものか？（例えば、看護師さんに気管挿管手技）

相手のバックグラウンド、相手のニーズを探る　「双方向的手法」「これをご存知ですか？」

到達目標を最初に挙げてもよい

最初から到達レベルに達している場合どうするか？(麻酔科医に気管挿管手技)

逆に相手に説明してもらう（丸投げではなく、相手のﾌﾟﾗｲﾄﾞをくすぐるように）

「これでいいんですよね？」と同意を確認しながら進めるのも一案

相手に他の受講者レベルに合わせてもらう

「ご存知だと思いますが、確認(復習)の意味で説明しますね」

* 一方的な指導にならない工夫 　参加型手法

できるだけ物に触れてもらい、体験してもらう

* 双方向的手法 　適宜質問や確認を交えながら対話形式ですすめる

相手の背景を知る。まずはどこまで知っているか尋ねる。

「これはご存知ですか？」 それを基礎にして指導することで、短時間でも効果が上がる。

相手が自分よりも知識があれば、逆に教えてもらってもよい。

質問もしくは確認の時間を設ける

* ※「伝える(指導する)には、十分な知識が要る！」という気づきも重要です。山岡先生によれば、「なべやかん」では、やはり、「なべ、やかん、お玉、ざる、おろし金」などが絶妙で、お菓子、筆記用具などを用いたケースでは、どういうわけか、うまくいかないとのことでした。

**＜成人教育、インストラクターの心得＞20分間×2**

　効果的指導の実習を踏まえて、午後のロールプレイに備えて、成人教育のあり方、方法論、インストラクターの心得についてまとめの講義を行います。

　自ら気づいてもらう方が学習効果が高いこと

　受講生に持って帰ってもらいたい目標をどこに定めるか？

　しっかり持って帰ってもらいたいものを持って帰るためにはどうすれば良いか？

　自己満足にだけなってしっかりと伝えていことが伝えられていないことはないか？

　など　基本的な考え方、姿勢について講義してもらいます

**＜スキルステーションでの指導法＞30分間×2**

考察ポイント

* 基礎スキルがきちんとできているか？⇨重要

教え方を話し合う会であるWSでスキルができていなかったら、話にならないですが、不十分な場合は介入するしかありません。

* 参加型・双方向型指導法

一方的な指導になってなかったか？

十分体験してもらったか？

適宜質問・確認を入れましたか？

しゃべっているだけの時間

受講者が実際に実技をしている時間　　　　　　　ディスカッション

受講者が道具を手にしている時間

* 受講者に心地よい雰囲気作り

複数を相手にする際の視線やうなづき、問いかけの方法

上手にほめる

* 時間内にまとめる工夫

ポイントが上手く伝わったか？（優先順位 到達目標）

多くを伝えようとするとポイントがわからなくなりがち 強調すべき点を絞る

まとめや質問の時間をとる

* フィードバック

効果的なフィードバックとは？

気づきが多い 行動や知識が向上する など

効果的なフィードバックをするために気を付ける点は？

その場で即座に行う

具体的・描写的に

理由や根拠を明確

簡潔に、短い言葉で

ひとつずつ

攻撃的にならない

非言語的メッセージや準言語的メッセージを上手に使う（うなずき、相槌など）

相手の言動を否定しない

オウム返し（共感）

ただし、伝えるべきことは伝える。

「それだと不十分だよ」と足りない個所を指摘する技術も必要。

**＜デモンストレーションの実践＞30分間**

「受講者にこんなデモ見せたらあかんやろう」というところがあれば必ずつっこんで下さい。

受講者レベルの参加者には、インストと呼んで差し支えないレベルまで昇華して頂かなくてはなりません。

**＜シナリオステーションでの指導法＞120分間**

考察ポイント

* 受講者の目標（ニーズ）に合ったシナリオ設定ができたか
* 介入の仕方は適切であったか
* オペレーターとプレゼンターは息の合ったシミュレーションを展開できたか
* デブリーフィングのファシリテートができたか、G・A・S（後述）を使っているか？
* 蘇生記録を利用して上手くデブリーフィングができたか

（ログを用いたフィードバックが上手にできたか）

* 補足説明や質問に対する応答が上手くできたか
* テキスト・板書などの資源を上手く利用できたか
* 受講者役をしてみてどうだったか

ディスカッションのテーマの例

より良い介入の方法は？

受講者が混乱している場合、止めるべきか？ or カンペなどを提示して誘導すべきか？ 等

危険な行為の時、止めるべきか？ or スルーして後で振り返るか? 等

振り返りで問題点が気づかなかった場合 、誘導するか？説明するか？再現するか？

同じことばかり「●●ができなかった、次回は●●ができるように頑張ろう」を繰り返す受講者

しゃべり過ぎではないか？ 誘導してないか？

まず「どうでしたか？」と尋ねる（双方向）

オウム返し うなずき・相槌（共感）

積極的傾聴

具体的・描写的に・簡潔に 「○○の場面ですが、」 コースガイドを示しながら

指摘（フィードバック）すべき項目が多い場合どうするか？

振り返りが本来のテーマから逸れた場合の軌道修正はどうする？

受講者からの質問に対する応対の仕方は？

分からないままにしない

ごまかさない →自信がなければ、後で調べて答える

GAS method(参考)

①　　収集 Gather

受講者による観察

ランダムで自由に反省点（よかった点、悪かった点）を思いつくまま集めることです。

②　　分析 Analysis

集めた情報を分類して（よかった点と悪かった点、リーダーがすべきこととメンバーがすべきこと、など）具体的に分析していきます。

③　　まとめ Summarize

分析結果をまとめて改善すべき点、次のシナリオに生かす点などをまとめていきます。

G・A・Sを一言で言うと、「何が問題だったか、なぜ問題が起きたか、どうしたら問題の再発がおきないか」を考えることです。G・A・Sを使ってデブリーフィングする方法を身につけて頂き、ICLSだけでなく日常の活動にも応用して貰いたいですね、

指導上のポイント

* インストは自分の意図通りに誘導してしまわないように、このシナリオのポイント以外は受講生の主体性に委ねるのが理想です。
* 受講生から自由な意見が出にくいのは、インストラクターが自由に語らせる雰囲気を作り出していないことが原因の場合もあります。
* 成人は自分で問題点を見出し、自分で解決できることで満足を得ます。
* 受講生とインストラクターは、同じ成人という意味で対等な関係です。
* インストラクターと受講生に上下関係を築くかぎり、自由討論はできません。
* 話し合いには時間が必要です。方向性は示しても話し合いを誘導せずに自立したディスカッションを見守る姿勢が必要です。
* ディスカッションとただのおしゃべりは異なります。散漫な話し合いのまとめにはインストラクターが関与することが必要なケースがあります。
* インストラクターも成人教育者のひとりであり、自らも学ぶことが必要です。
* 知らなかったことを知る喜びは受講生が学びから得る満足と同じです。
* 蘇生講習会はその時間内で完成させる（完成できるわけもなく、受講直後から忘れられていきます）のが目的でなく、自分たちのチームで最善を求めて常に検討していくスタイルを身に付け、さらに前に進もうとする意欲を持ち帰ってもらうことが大切です。
* 職場で生かせるチーム医療をどうやって身に付けるか？です。その意味では胸骨圧迫や換気の仕方といった技術的指導に加え、チーム医療の進め方や現場で居合わせたメンバーだけでどうやって解決していくというコミュニケーションが大事です。
* インストラクターには個々の技術の指導に加え、コミュニケーションの取り方を伝える技術を身に付けることが望まれます。
* 参考資料：学研メディカル秀潤社「[改訂第3版BLS/ALS：写真と動画でわかる一次/二次救命処置](https://goo.gl/tCYRx9)」

BLS：　116-120、121-124、182-187、188-189ページ

ALS：　14-17、59-61ページ

**＜おわりに＞**

各パートで、「これについて伝えたい！」と考えていても、なかなか、うまくいかないことが多いものです。一日を通じて、理解していただきたいことを明確にしておき、各パートのおおよその目標をイメージしておく。そして、参加者の皆様の意見に敏感に反応し、そこから、議論を発展させてください。そして、議論を上手にまとめてください。

**ACLS大阪**

二次救命処置講習会

インストラクターコース

（ICLS 指導者養成ワークショップ）

進行の例

パターンE（作成：岸本正文【委員】）

大阪府医師会救急・災害医療部三次救急委員会

ACLS大阪ワーキンググループ編





https://www.osaka.med.or.jp/doctor/acls.html

**ACLS大阪　インストラクターコースの概要**

　ACLS大阪では次ページのような目標を掲げて、インストラクターコースを開催しています。平成15年2月15日に第1回コースを開催し、これまでにコースを重ねています。試行錯誤を繰り返し、日本救急医学会ICLSコース指導者養成ワークショップなども参考に、毎回マイナーチェンジを行っております。このコースは参加者のみなさんと共に作り上げていくコースだと思っていますので、積極的にご意見をいただければと思います。

今回のコースにはインストラクター初心者から中堅、ベテランインストラクターまでが共に参加します。このコースから得られるものはそれぞれのインストラクター経験や立場によって異なると思います。参加者のみなさんには「新人インストラクターに最低限知っておくべきことを伝えたい」「インストラクションのこつを教えたい」「日頃悩んでいるテーマをディスカッションしてインストラクターとして一歩進みたい」等個人個人で目標を持ってコースに臨んでいただきたいと思います。

【持参するもの】

筆記用具、ストップウォッチ（持っておられれば）

【各自が印刷し持参するもの】

本資料、ACLS大阪コンセンサス、ブース割、時間割

**【ACLS大阪　インストラクターコースの目標】**

インストラクターコース設立の目的

ACLS大阪の目的（二次救命処置を普及させて、救急医療のレベルを向上させる）を理解し、発展させることのできるインストラクターを養成する。

一般目標

　二次救命処置の内容を熟知し、その効果的な指導方法を実践できるインストラクターとなる

具体的目標

* 二次救命処置を医療従事者に普及させることの意義を説明できる。
* ACLS大阪のコンセンサス（コースの到達目標、指導方法、用語等）を理解する。
* シミュレーターの操作ができる。
* 様々な教育技法を学び、実践できる。
* インストラクターとしてのマナーを身につける。
* 各コースの趣旨、到達目標に沿った指導ができる。
* 受講者に応じた指導ができる。
* ブース内での役割分担を考え、チーム一体となった指導ができる。
* インスト経験者が，初心者に対し、ノウハウを提供し、インストを育てていくことの意義を理解する。
* 自身の指導経験を踏まえ、各々目標を持ってコースに望む。
* インストラクターとしての目標を持ち、継続的に研鑽することの意義を理解する。

**【内容】**

　受講者は講義と最後の全体振り返り以外はグループに分かれてファシリテーターと共にグループディスカッションを重ねる形でコースを進めていきます。

|  |
| --- |
| **二次救命処置講習会 インストラクターコース　時間割** |
| 時間 | 時刻 | 　 |
| 0:15 | 8:45～9:00 | 受　付 |
| 0:20 | 9:00～9:20 | オリエンテーション／宿題の発表 |
| 0:20 | 9:20～9:40 | 成人教育技法とインストラクター心得について |
| 0:20 | 9:40～10:00 | 会場設営と資機材管理 |
| 0:20 | 10:00～10:20 | シミュレーターの基本操作（講義） |
| 0:20 | 10:20～10:40 | シミュレーター操作法 |
| 0:10 | 10:40～10:50 | 休　憩 |
| 1:10 | 10:50～12:00 | 効果的指導法/ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの仕方 |
| 0:50 | 12:00～12:50 | 昼　食 |
| 0:20 | 12:50～1310 | ACLS大阪の歩みと講習会の管理 |
| 0:20 | 13:10～13:30 | ACLS大阪のコンセンサスについて |
| 1:00 | 13:30～14:30 | スキルステーションの進め方 |
| 0:10 | 14:30～14:40 | 休　憩 |
| 0:40 | 14:40～15:20 | デモンストレーションの指導方法 |
| 0:10 | 15:20～15:30 | 休憩 |
| 0:40 | 15:30～16:10 | ブリーフィング＆デブリーフィング形式によるシナリオの進め方１ |
| 1:00 | 16:10～17:10 | ブリーフィング＆デブリーフィング形式によるシナリオの進め方２ |
| 0:10 | 17:10～17:20 | グループ内で振り返り |
| 0:10 | 17:20～17:30 | 全体での振り返り |
| 0:10 | 17:30～17:40 | 後片付け　 |

1．オリエンテーション

インストラクターコースの1日の流れについて説明します。

2．宿題の発表

宿題「良いインストラクションとは？」について全員に発表していただきます。

1. 成人教育技法・インストラクター心得に関する講義

二次救命処置コースで広く用いられている成人教育技法の概説とインストラクターの心得について説明します。

4．会場設営と資機材管理

実際に受講者にシミュレーターのセッティングを行っていただきます。

【到達目標】

・コース運営に必用な資器材を知ると共に、これを管理するタスクの仕事の重要性を理解する。

・設置場所も含めた資機材のセッティング方法を学ぶ。

【準備】

・シミュレーター

・その他資機材（除細動器、テーブルタップ・・・）

【進め方】

1．シミュレーターを袋から出し机の上に設置する。

2．電源をつける。

3．シムパッドを立ち上げる。

4．いくつかの心電図波形を出してもらう。

5．タスクの重要性、物品貸し出し時のトラブルについて説明する。

設営のポイント

1. コンセントの位置は適切か？
2. シナリオを進める上でスペースは十分か？（他のブースとの距離も重要）
3. 接続方法は間違っていないか？
4. テーブルの大きさや高さは適切か？
5. 除細動器の位置は適切か？
6. シミュレーター、除細動器は精密機械なので取り扱いは丁寧に！

5．シミュレーター操作法

簡単な基本操作の説明後、いろいろな操作を行っていただきます。

【到達目標】

・二次救命処置 実習に使用するシミュレーターの操作方法を学ぶ

・シナリオを使用し、その意義を理解する

【準備】

・シミュレーターの操作法解説集

【進め方】

1．シミュレーターの操作法概説（全体で講義形式）。

2．シミュレーターを使用してオペレーターを体験してもらう。操作の解説にファシリテーターが一人つく。プレゼンター，受講者役はファシリテーターもしくは受講者が担当する。

シナリオは適宜想定する

例）VFに対して1回の電気ショックで心拍再開。2分後のリズムチェックで心拍再開を確認して終了

指導ポイント

1. オペレーターとプレゼンターが呼吸を合わせる必要性
2. リズムの選択
3. QRS波形の選択
4. 呼吸、嘔吐、苦悶

指導ポイント

1. 自己心拍の再開方法
2. 電気ショック成功の有無

※よくあるトラブルにも触れてください。リンク停止、バッテリーの確認、波形がでない場合の対処など。

6．効果的指導法／フィードバックの仕方

二次救命処置コースでインストラクターをするために必用となる基本的な技術、知識を身に付けることを目標とします。指導の際に有用な技能（双方向コミュニケーション、フィードバックの仕方等）といった、インストラクターに必要な知識・技術を修得するための実習を行います。

**（1）効果的指導法（参加型手法と双方向的手法）**

【到達目標】

・インタラクティブにな指導を行うための基礎スキルとして「参加型手法」と「双方向的手法」を知り、経験する。

【準備】

・受講者の人数分のイス

・ストップウォッチもしくはタイマー

・手に取れる物（例：聴診器，酸素マスク、はさみ、テープ、喉頭鏡、輸液ボトル、ジュース，チョコレート等二次救命処置と全く関係のない物も準備しておくのがポイント）

【進め方】

・イスは軽く円弧を描くか，直線状に，１列に並べておく

・2人または3人のグループに分ける

・１人が他の受講者に物を説明する

・ロールプレイ→解説、ロールプレイ→解説、を繰り返す

・受講者に配るものは二次救命処置に関連するものとしないものを交互にしておくとスムーズ。

***時間配分例***

導入；4分→ロールプレイ1；3分→感想・解説3分→ロールプレイ2；3分→感想・解説3分→ロールプレイ3；3分→感想・解説2分→ロールプレイ4；3分→感想・解説2分→最後のまとめ・質問；4分（ここまで30分の予定）

（※ロールプレイ、感想・解説の時間は2分でも可能）

1．ステーションの目的を伝える。

「少人数実技中心のコースで、効果的に教えるための指導法を経験していただきます」

（この時点では参加型、双方向といった言葉は使わない）

2．説明なしに、まずロールプレイをしてもらう。

隣同士でグループを作る。1人に準備した物品を一つずつ渡していく。物品を渡された方がインストラクター、残りの2人が受講者役となってロールプレイし、3分間で渡された物品の説明をしてもらう。

「まず、ロールプレイをしていただきます。グループのうち、物を手渡された人がインストラクター役です。残りの人が受講者役です。特に説明はしませんので，今から3分間さしあげます。渡されたものを説明してあげて下さい。」

3．教えてみての感想をインストラクター役の数人から、教えられてみての感想を受講者役の数人から聴いてみる。

「さて、教えてみていかがでしたか？何か気を使ったことはありますか？」

5．1 回目の解説をいれる。

6．インストラクター役、受講者役を交代して、もう一度ロールプレイをする。このとき、物品を交換することがポイント。1 回は二次救命処置 に関連した物品を用いると、受講生の満足度は高い。

「では、今度は交代してロールプレイしましょう。同じ物では面白くないので、時計回りに物品を移動させて下さい。それでは、また3分間さしあげます。」

7．教えてみての感想をインストラクター役の数人から、教えられてみての感想を受講者役の数人から聴いてみる。攻守交代しての感想を聴くとよい。

「さあ、今度は教える側に回ってみて、どうでしたか？」など

8．2 回目の解説をいれる。

9．もう一度インストラクター役、受講者役を交代してロールプレイする。

同様に物品を交換する。小グループを変更するのも手。この回までに二次救命処置 に関連した物品を用いていたロールプレイを1回は行うとよい。

10．最後のまとめを行う。

「ここでは、少人数実習中心のコースでの指導法として、参加型の指導と双方向的なアプローチを経験していただきました。ここでお話した指導法はあくまで一つの例であり、こうすれば必ずうまく行く、というものではありません。実際にコースで教える中で、指導法というものを考えながら教えていただければ、と思います。その中で今日の内容を思い出していただくと、役に立つこともあるかもしれません。

また，今日はいきなり物を渡されて、教えろ、と言われて困ったのではないかと思います。実際のコースでは事前に指導内容も明示されているので、事前の準備が大切だ、ということも合わせて経験していただけたのではないでしょうか。」

11．質問を受け付ける。

＜ロールプレイ中の観察ポイント＞

・自己紹介をしているか

・向き合っているか（イスの向きを変えるとなおよい）

・物を受講者に触らせながら指導しているか

・指導を始めてから物を受講者に触らせるまでどれくらいかかっているか

・受講者の背景と基礎知識を把握しながら指導しているか

・受講者の理解度を確認しながら指導しているか

＜感想を聴くときのポイント＞

・渡された物についてではなく、教え方についての感想であると強調する

・上記のポイントをうまく盛り込んでいる受講者がいれば、どこに気を使ったか尋ねる

＜解説のポイント＞

・以下にあげるのは、解説の順番の一例。直前のロールプレイを題材にして、内容の順番は自由に組みかえてよい。

1 回目の解説

＠自己紹介をすること

＠横を向いたままではなく、向き合うようにする。スペースを自由に使うこと

＠「参加型手法」を解説する。できるだけ物には触れてもらい、さらに経験してもらう

2 回目の解説

＠「双方向的手法」を解説する。

＠相手の背景を知る。まずはどこまで知っているか尋ねる。それを基礎にして指導することで、短時間でも効果が上がる。

＠相手が自分よりも知識があれば、逆に教えてもらってもよい。教える側、教えられる側という一方向ではなく、全員が何かを学ぶことができる。

**(2)フィードバックの仕方**

【到達目標】

・シミュレーション学習におけるフィードバックの目的を理解する。

・フィードバックの種類を理解する。

【準備】

・筆記用具

・板書

【板書例】

何のためにフィードバックするか？

・その場で正確な知識・手技を身につける。

・学び続ける気持ちにさせる

フィードバックの種類

ポジティブ

ネガティブ

コンストラクティブ（建設的）

フィードバックの方法

双方向で（質問を受ける。やりとりしながら。など）

具体的に（漠然としたフィードバックはできるだけ避ける）

「怒ること」と「厳しいこと」は違う

【進め方例】

(1) 本ブースの目的と演習方法を説明する。

(2) ファシリテーターがリーダー受講者役となってデモを行い、シナリオを進める。

(3)数人にフィードバックしてもらう。

(4)フィードバックについてディスカッションする。

(1) 本ブースの目的と演習方法を説明する。

「フィードバック」とは？；インストラクター側から学習者へ伝えるコメント。

このブースは「良いフィードバックとはどういうものか？」をそれぞれに考えていただく時間であると説明し、フィードバックの目的；

　・（受講者が心肺蘇生について）その場で知識・手技を身につける

　・（受講者がこれからも）学び続ける気持ちになる

を説明する。

「心肺蘇生のすべてを一日で身につけることは不可能なことであり、今後も学習し続けることが必要である」から、特に「学び続ける気持ちにさせる」ことが重要であることを強調する。

（2）《デモシナリオ；VF。1ショックで心拍再開》

***リーダー役インストラクターパターン例***（あまり不自然にはしない）

ポジティブフィードバックを誘導する行動

1. 治療の流れは理解している。
2. 絶え間ない胸骨圧迫・換気はできている。
3. リーダーとしての指示をしっかりとできる。立つ位置がよい。
4. flat line protocolが実行できる
5. 挿管の確認がしっかりできる。
6. 電気ショックの安全確認を確実に行っている。

コンストラクティブなフィードバックを引き出す行動

1. 応援到着、背板を入れる時、頚椎保護はできていない。
2. 換気がしっかりできているか確認はしていない。（BVM換気は上手でない人が一人でやっている）
3. 家族が入ってきた際に、無理やり看護師に外へ誘導してもらう。

(3)数人にフィードバックしてもらう。

「このようにシナリオが終了したら、通常はまずプレゼンターがフィードバックする。それに続いて、チェッカーがフィードバックする」と説明し、数人の受講者にフィードバックしてもらう。事前に、コースインストラクターの経験回数がわかっていれば、慣れていない方、慣れている方にそれぞれフィードバックしてもらってもよい。このとき、行われたフィードバックを分類しながら板書していってもよい。

※インストラクター経験の少ない受講者から順にフィードバックをしてもらうとスムーズ。

(4) フィードバックについてディスカッションを行う。

行われたフィードバックについて全員で振返るとともに日頃フィードバックで注意している点、悩んでいる点などをディスカッションする。ファシリテーターとなり、できるだけ受講者らの意見を引き出す。

***ディスカッションのポイント例***

1. 短時間で重要なメッセージを伝えるためポイントを絞る。
2. 重要なフィードバックは受講者全員の前で行う。
3. ネガティブはできるだけ避け、コンストラクティブなフィードバックを心がける。
4. 具体的なフィードバックを心がける。
5. インストラクターの態度＝非言語メッセージもフィードバックの中に含まれる。
6. 非言語的な表現、インタラクティブな手法を活用したフィードバックは効果的である。
7. チェックリストを使用した手技に関するフィードバックだけでなく、そのシナリオで伝えたかったポイントもしっかり受講生に伝えるように心がける。
8. 受講者が学び続ける気持ちを持つようなフィードバックが理想。ポジティブフィードバックはその代表例。

7．ACLS大阪の歩みと講習会の管理

ACLS大阪のこれまでの流れを説明します。またACLSコースの管理システムや、自施設にて

コースを開催する際のポイントや注意点を説明します。

8．ACLS大阪のコンセンサス

コンセンサスの概要を説明します。

9．スキルステーションの進め方

BLS、気道管理、モニター各スキルブースの手技を再確認し、教え方のコツ（例）をファシリ

テーターが提示します。

各スキルブースは約20分間の予定です。

10．デモンストレーションの指導方法

各グループにデモンストレーションを行っていただき、それを全員で評価します。作戦会議5分、デモンストレーション時間8分の予定です。

良いデモンストレーションとはを全員で議論します。

11．ブリーフィング＆デブリーフィング形式によるシナリオの進め方１

ファシリテーターによる進め方例を提示していただき、全員で議論します。

【進め方】

最初に3名の代表（ファシリテーターから選ぶ）に全員の前でいつものコース時に行っておられる進め方を実演していただきます（1パターン約8分）。

それを見た後に議論します（5分）。13分×3＝約40分予定。

12．ブリーフィング＆デブリーフィング形式によるシナリオの進め方2

受講者2人が実際にブリーフィング＆デブリーフィング形式によるシナリオを進めてもらいます。

1グループ持ち時間約20分（作戦5分　ブリーフィング2分　シナリオ5分　デブリーフィング2分　議論6分）。20分×3＝60分。受講者役はファシリテーターが行い、負荷を掛けます。

負荷の例：全く意見が出ない。

　　　　　1人の受講者が出しゃばる。

　　　　 できなくて途中で泣き出す。

　　　　　ガイドラインを全く理解しない。

13．振り返り

個々人、各グループが一日を通じ気づいた点、発見したことを参加者全体でディスカッションすることでさらに深め、共有することを目指します。

このコースは参加者のインストラクターとしての「成長を支援する」ものであり，コース内でのディスカッション等を通じて参加者（ファシリテーターも含め）が自ら何かに「気づく」ことを目標としています。主催者側から模範解答を提供するようなものではありませんのでご了解ください。